

(公社) 秋田県診療放射線技師会 令和4年度調査研究事業

診療放射線技師の業務範囲の見直しに伴う

告示研修に対する意識調査報告

事業推進委員会



背景（診療放射線技師の業務範囲の変化について）

告示研修（実技講習）に至るまでの、診療放射線技師の業務範囲の変化に関する以下3つの経緯について、留意を必要とする。

- ① 2015年4月1日施行の診療放射線技師法施行規則の一部改正（医政発0217第8号）により，“静脈路に造影剤注入装置を接続する行為（静脈路確保のためのものを除く）、造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為、当該造影剤の投与が終了した後に抜針および止血を行う行為”などの業務範囲の見直しがされた。
（⇒2015業務拡大に伴う統一講習会）
- ② 2021年9月30日に，“現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について”（医政発0930第16号）が通知され、診療放射線技師の業務として血管造影・IVRにおける補助行為などが明確化された。
- ③ 2021年10月1日施行の診療放射線技師法施行規則等の一部改正（医政発0709第7号）によって、造影剤注入用の静脈路の確保などの業務範囲の見直しがされ、現在に至っている。（⇒告示研修）

目的

現免許取得者が2021年10月1日施行の新たに見直された業務を行うには厚生労働大臣が指定し，日本診療放射線技師会が実施する研修（以下，告示研修（実技講習））の受講が義務付けられている。

今後の実技講習を当会が計画するにあたり，告示研修に対する秋田県内の診療放射線技師の捉え方や勤務先の対応の状況などについて調査を実施し，受講者数増加の促進に繋げることを目的とする。

【調査方法】

会員・非会員を問わず，秋田県内診療放射線技師在籍施設へメールおよびファックスにてアンケートを送信

【調査期間】

令和4年8月5日から9月11日まで

【回答率】

秋田県内診療放射線技師数 463（JART組織率報告より）

回答数 90（内訳：会員 81，非会員 9）

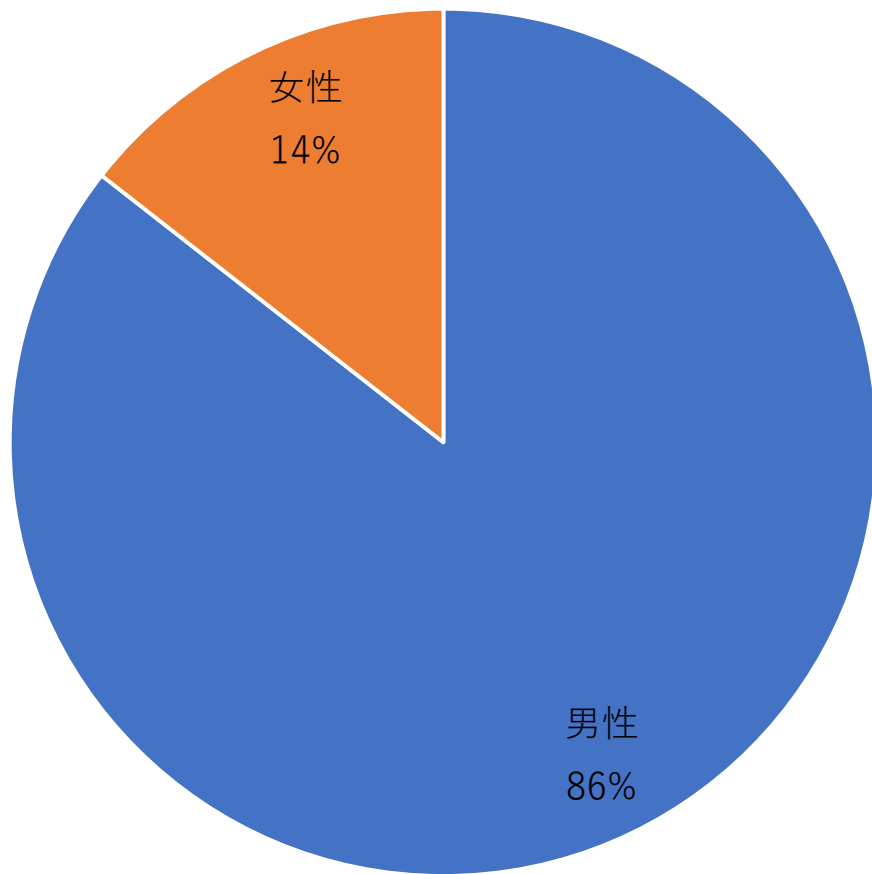
回答率 19.44%

アンケート内容

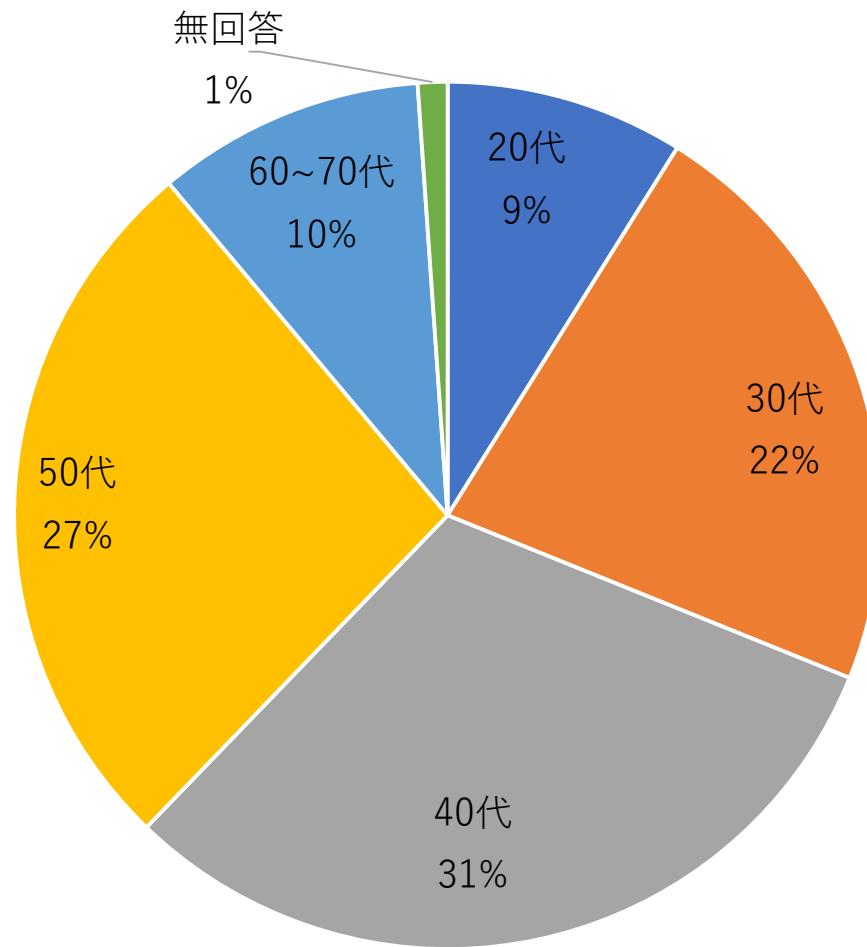
1. ご自身に関する質問
2. ご施設の概要に関する質問
3. 診療用放射線法施行規則等の一部改正に伴う告示研修に関する質問
4. 告示研修受講後のタスク・シフト/シェアに関する質問
5. 告示研修に対する考えに関する質問
6. その他, 最後に

1. ご自身に関する質問

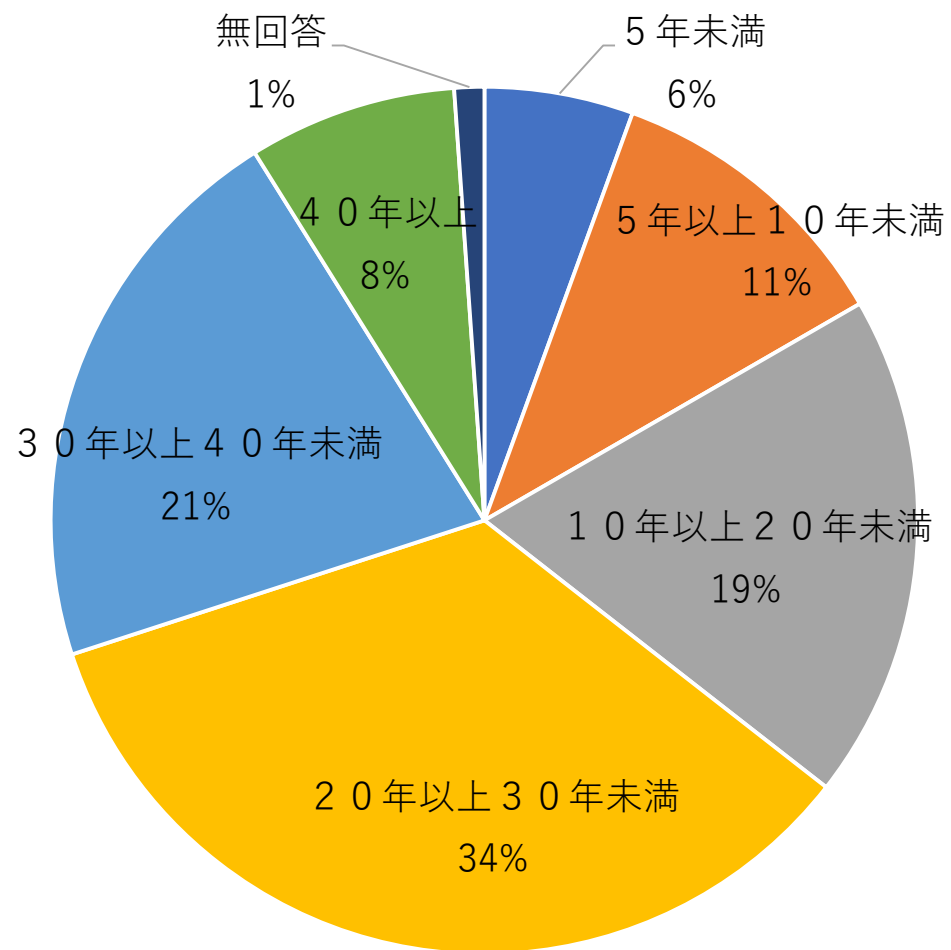
Q1. 性別を教えてください



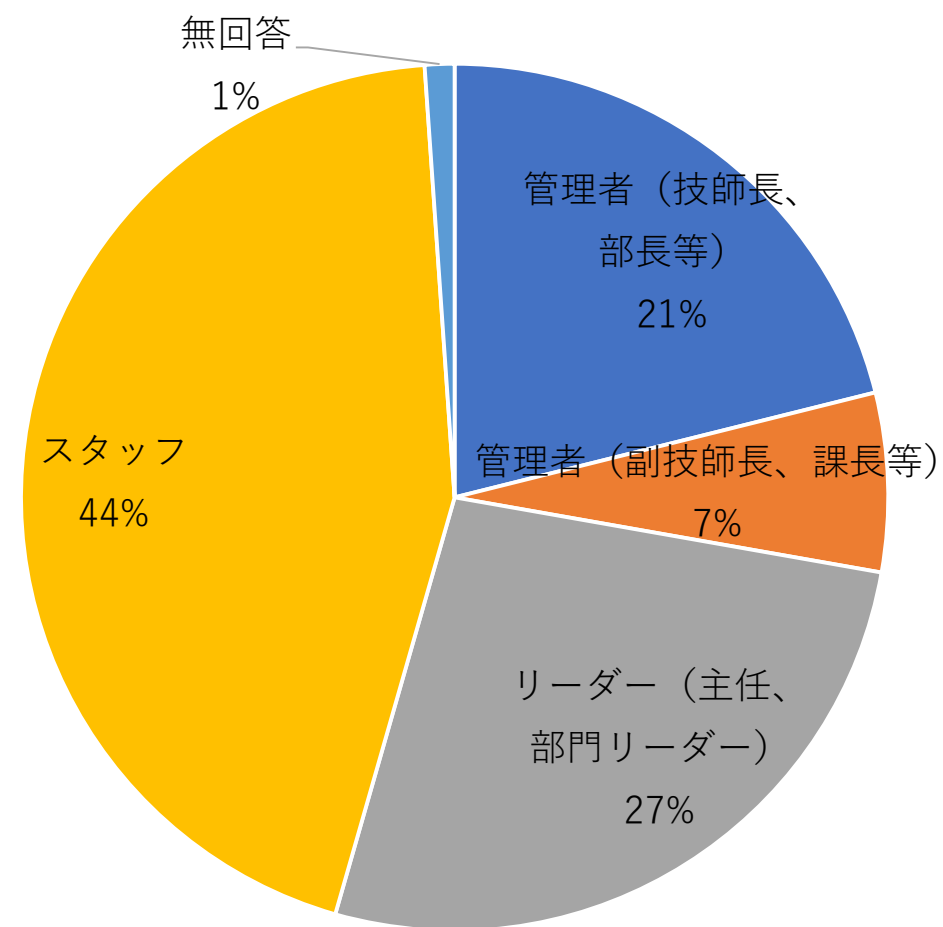
Q2. 年代を教えてください



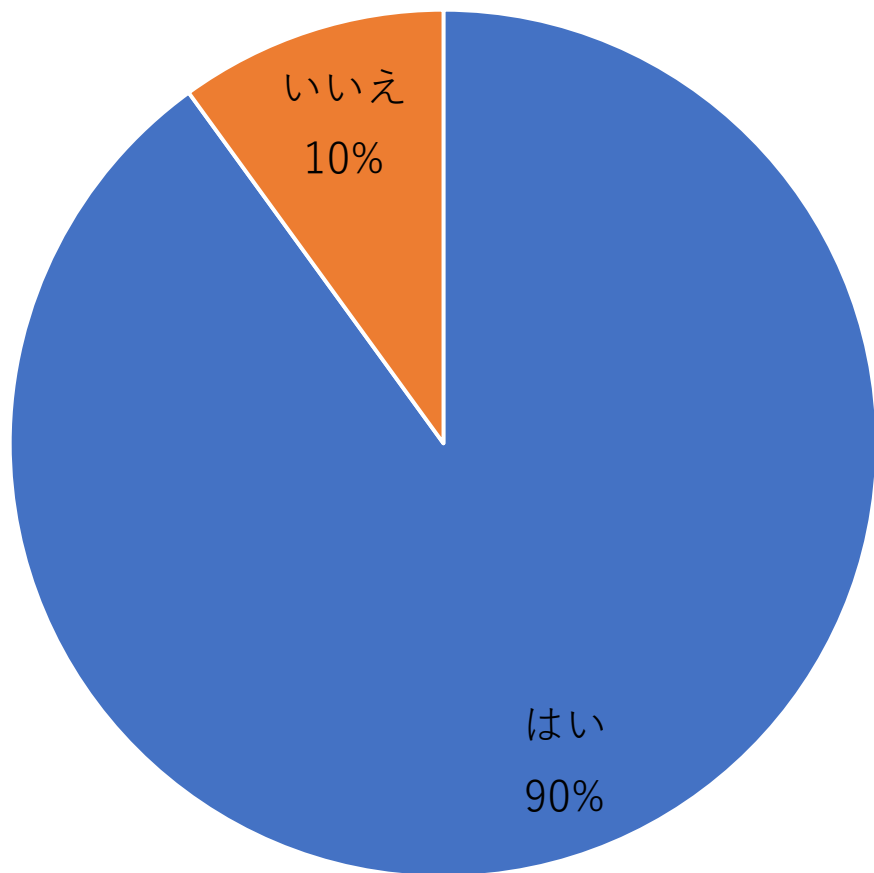
Q3. 診療放射線技師としての経験年数を教えてください



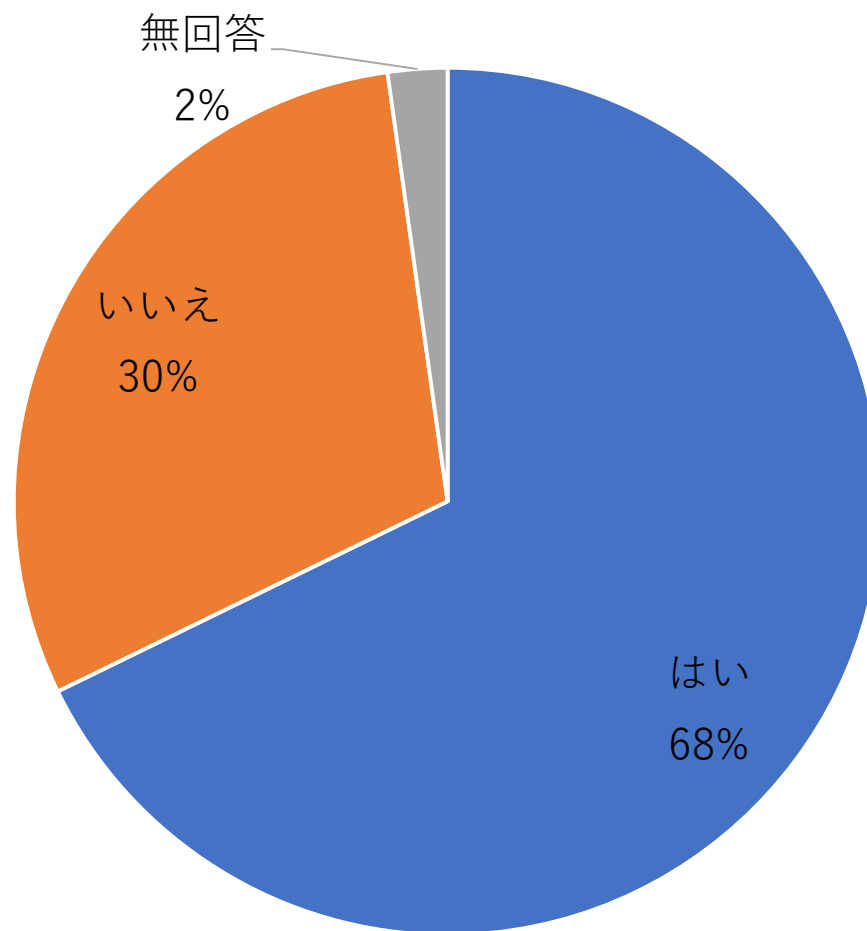
Q4. ご施設での役職を教えてください



Q5. 日本診療放射線技師会員ですか



Q6. 2015年業務拡大に伴う統一講習会は受講されましたか

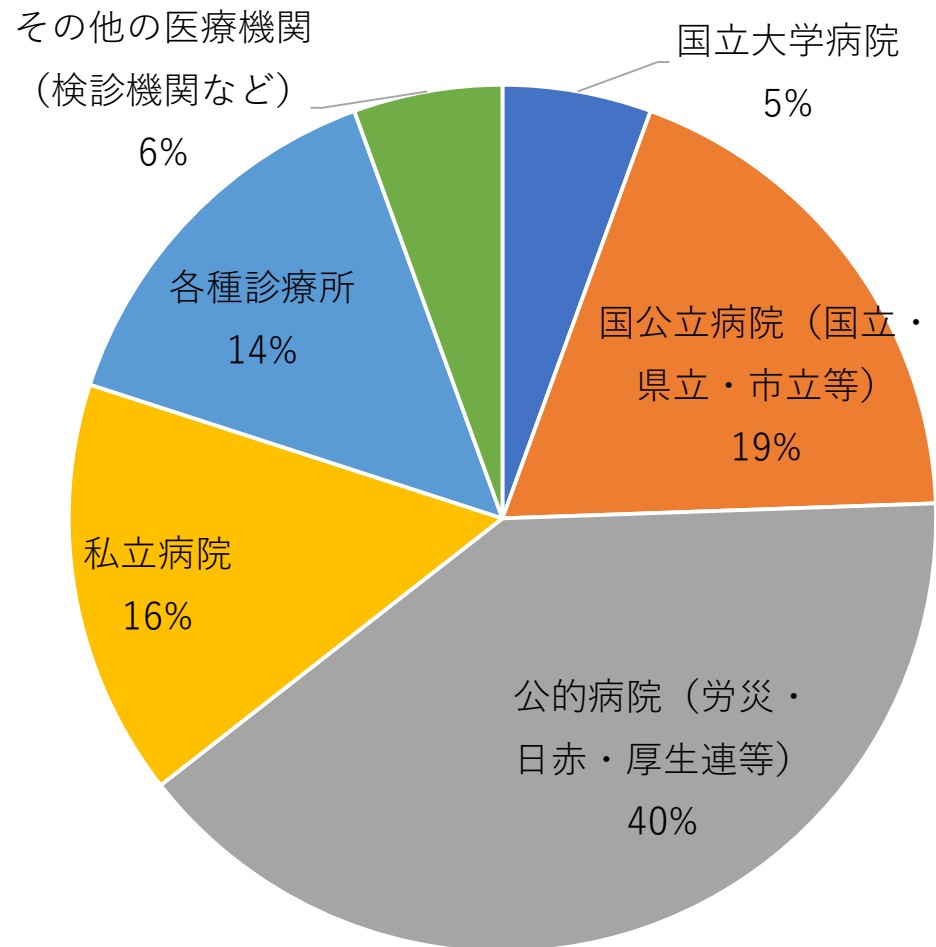


小括 1

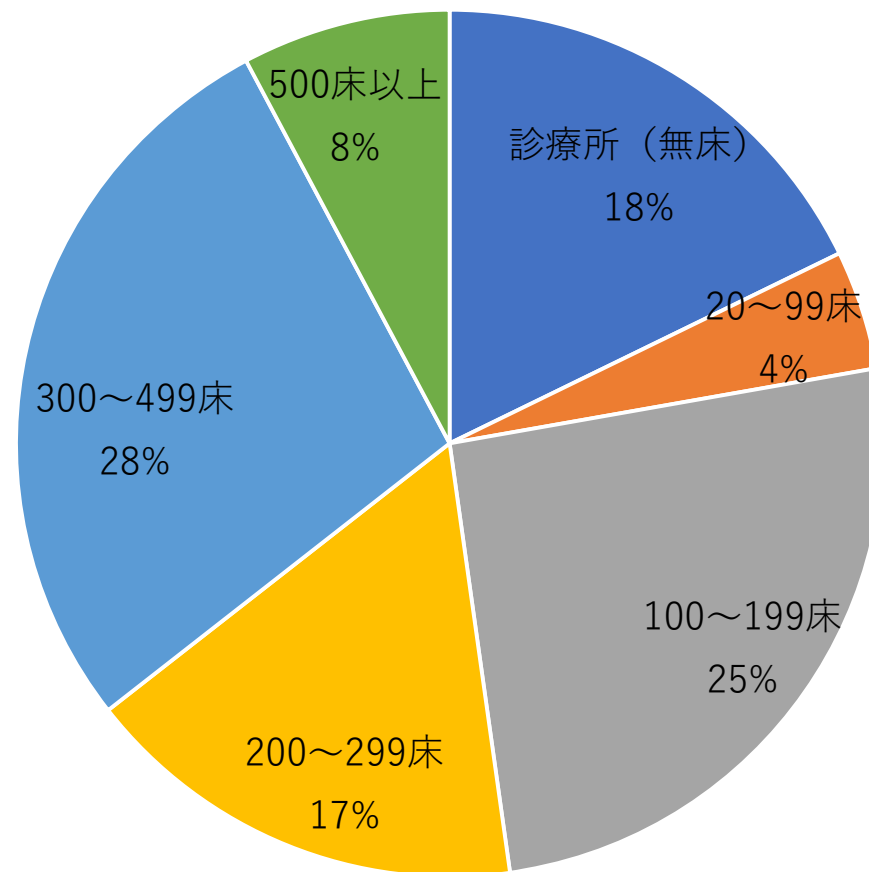
- 会員の男女比から考えると、女性の回答数がやや少なかったように思われる。
- 年代別と経験年数別では、若い世代の回答数がやや低めで、関心の低さが感じられる結果であった。
- 役職別では、管理者やリーダーの回答が半数以上を占め、マネジメントを行う上での意識の高さが感じられた。
- 非会員より1割ではあったが、貴重な意見が寄せられた。
- 回答者の約3割が2015年統一講習会未受講者で、関心があることがうかがえた。

2. ご施設の概要に関する質問

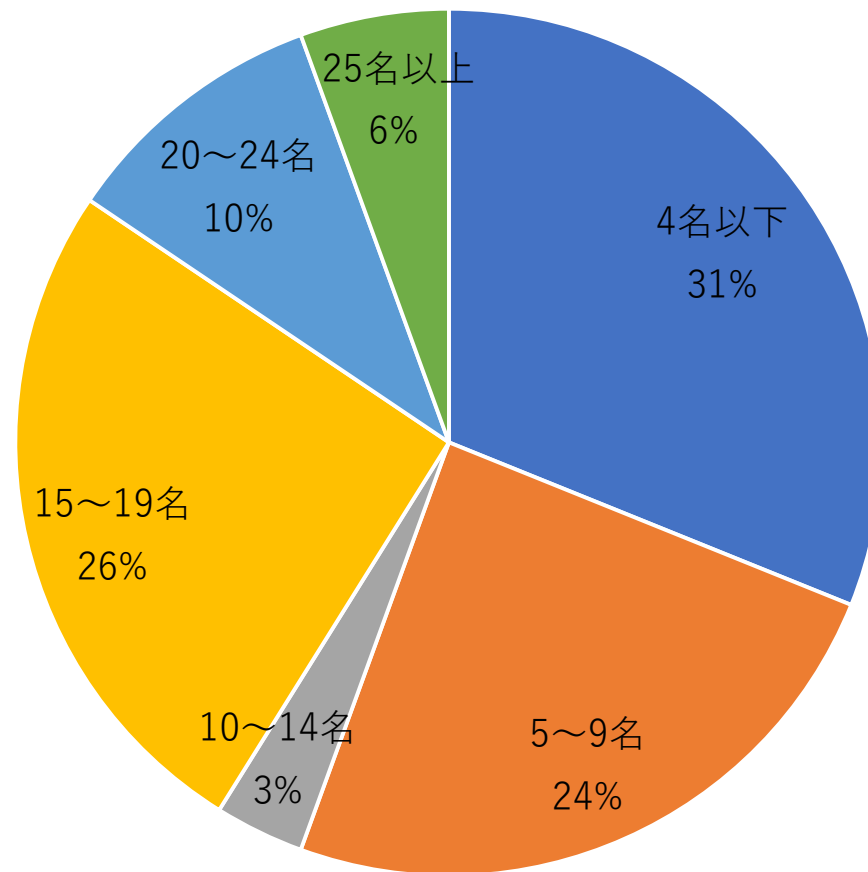
Q7. ご施設の病院区分は次のいずれですか



Q8. ご施設の病床数は次のいずれですか



Q9. ご施設の診療放射線技師は何名ですか（パートも常勤換算して下さい）



小括 2

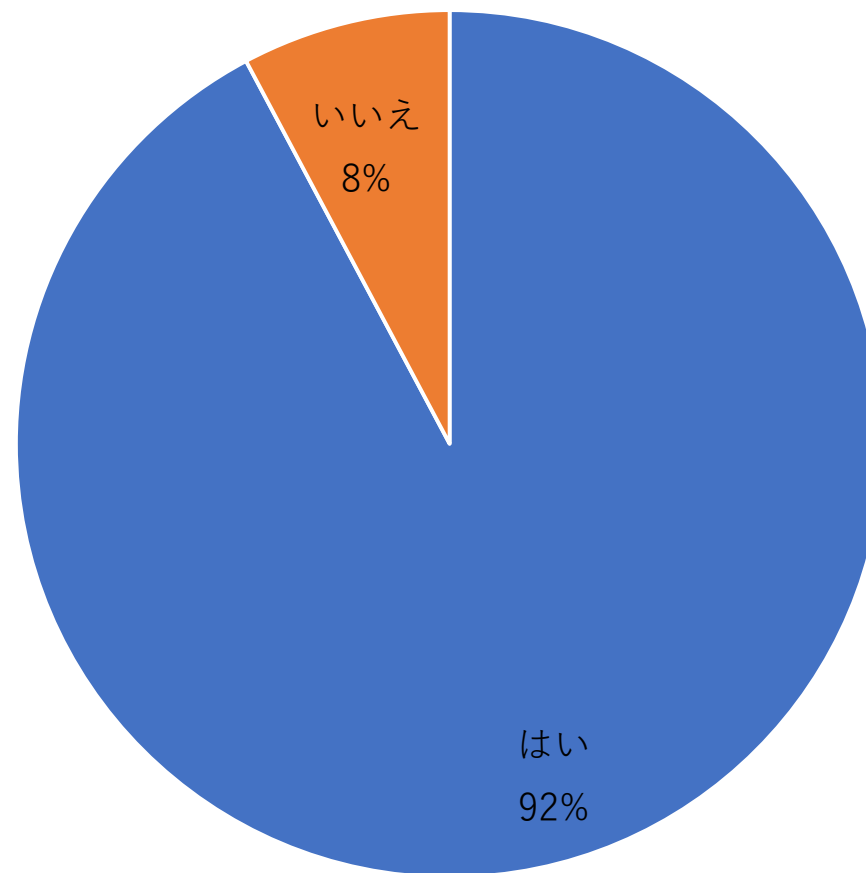
- 回答率が19%台と低かったものの、病院区分や施設の規模等を勘案するに、各施設の現状把握ができたと考えられる。
- 特に小規模施設の技師の回答が3割強を得られたことは、広く意識調査できたものとする。

3. 診療用放射線法施行規則等の 一部改正に伴う告示研修に 関する質問

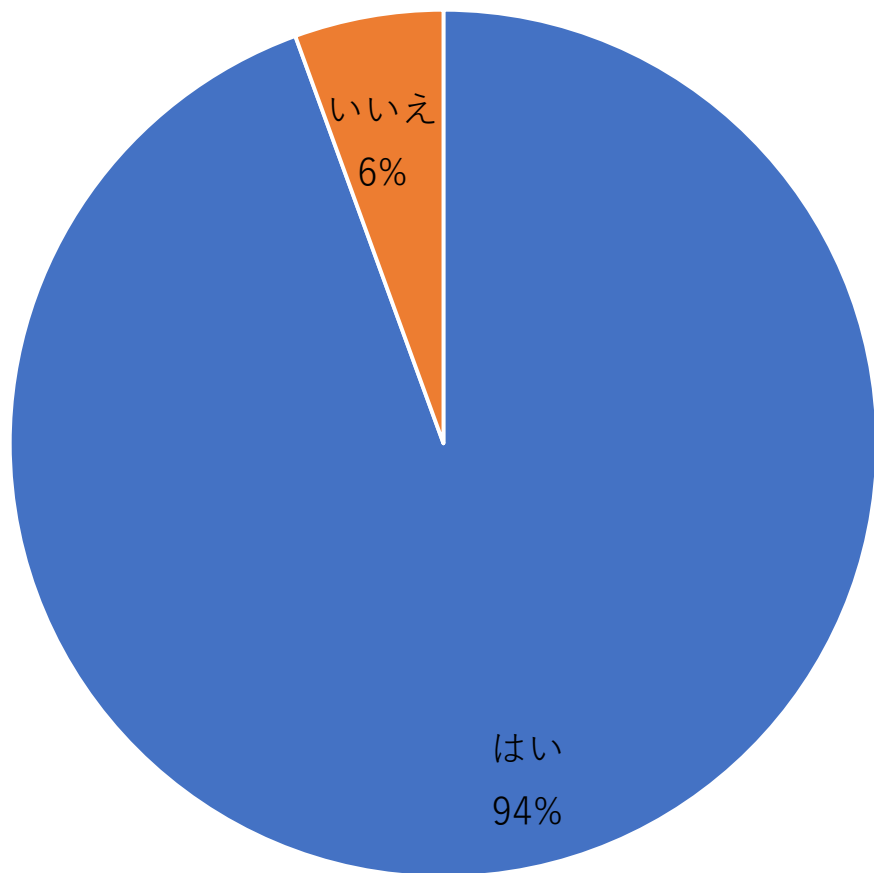
Q10. 令和3年7月9日医政局0709第7号が発出され、診療放射線技師の業務範囲が見直されたことはご存じですか

はい	90	100.0%
いいえ	0	0.0%

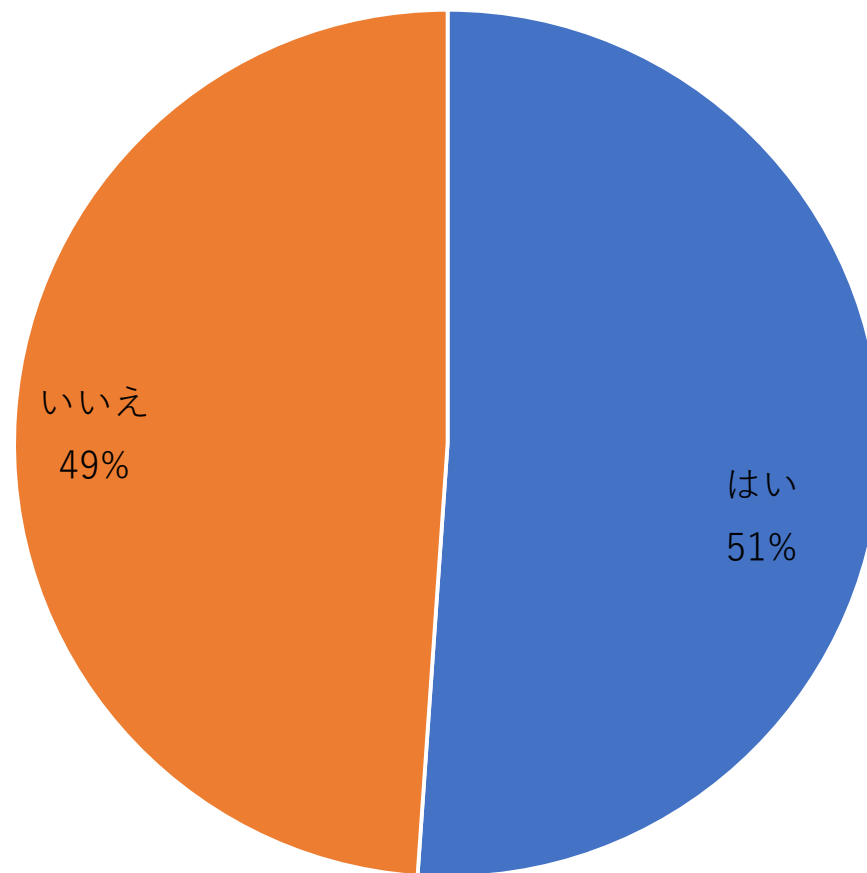
Q11. 令和6年4月1日以前に診療放射線技師の免許を受けた者が追加された業務を行おうとする場合、厚生労働大臣が指定する告示研修の受講が義務付けられましたことはご存じですか



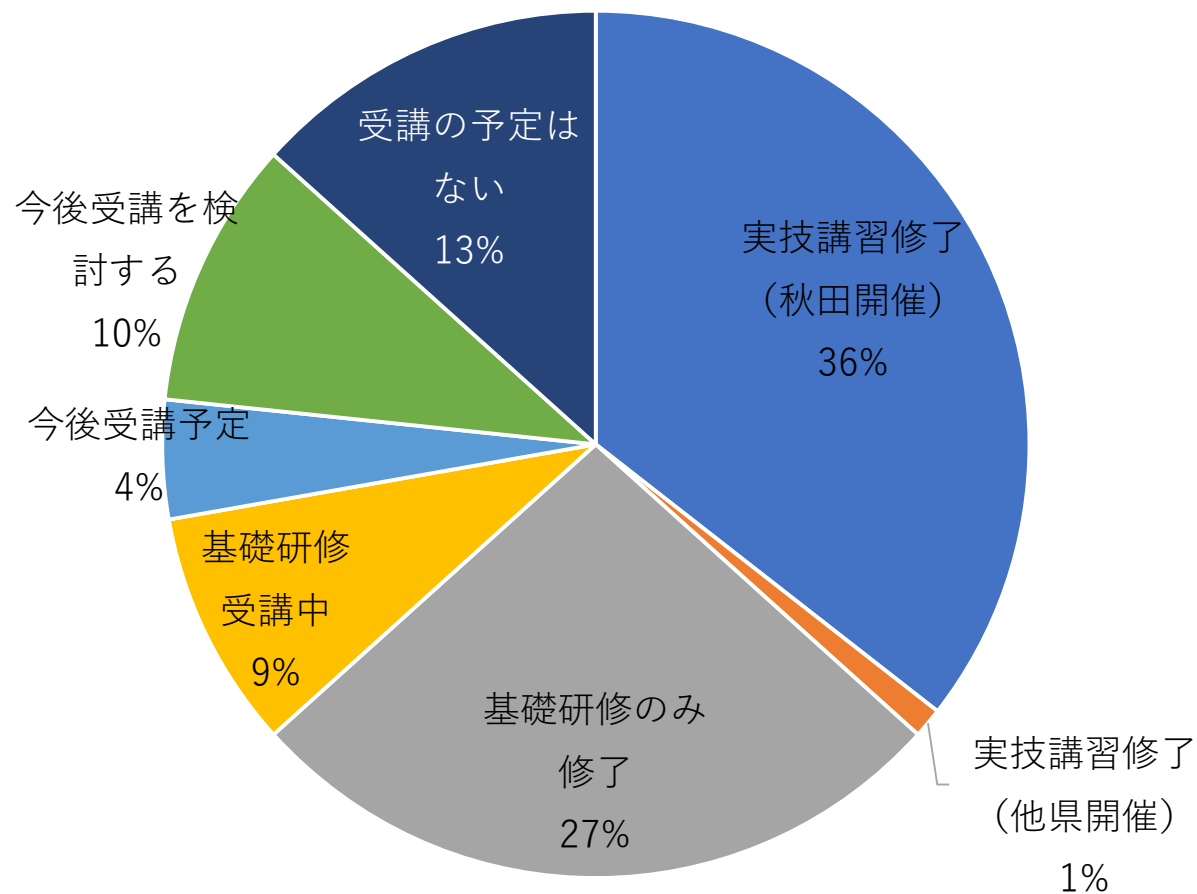
Q12. 告示研修の内容が基礎研修と
実技講習から構成されていることは
ご存じですか



Q13. 実技講習の地方開催は令和6年頃までの
期間限定であることをご存じですか



Q14. 既に告示研修は始まっておりませんが，現在の受講状況を教えてください



実技講習修了 (6/25, 26秋田開催) (32) → Q15

実技講習修了 (他県で開催) (1) → Q15

基礎研修 (e-ラーニング) のみ修了(24) → Q16

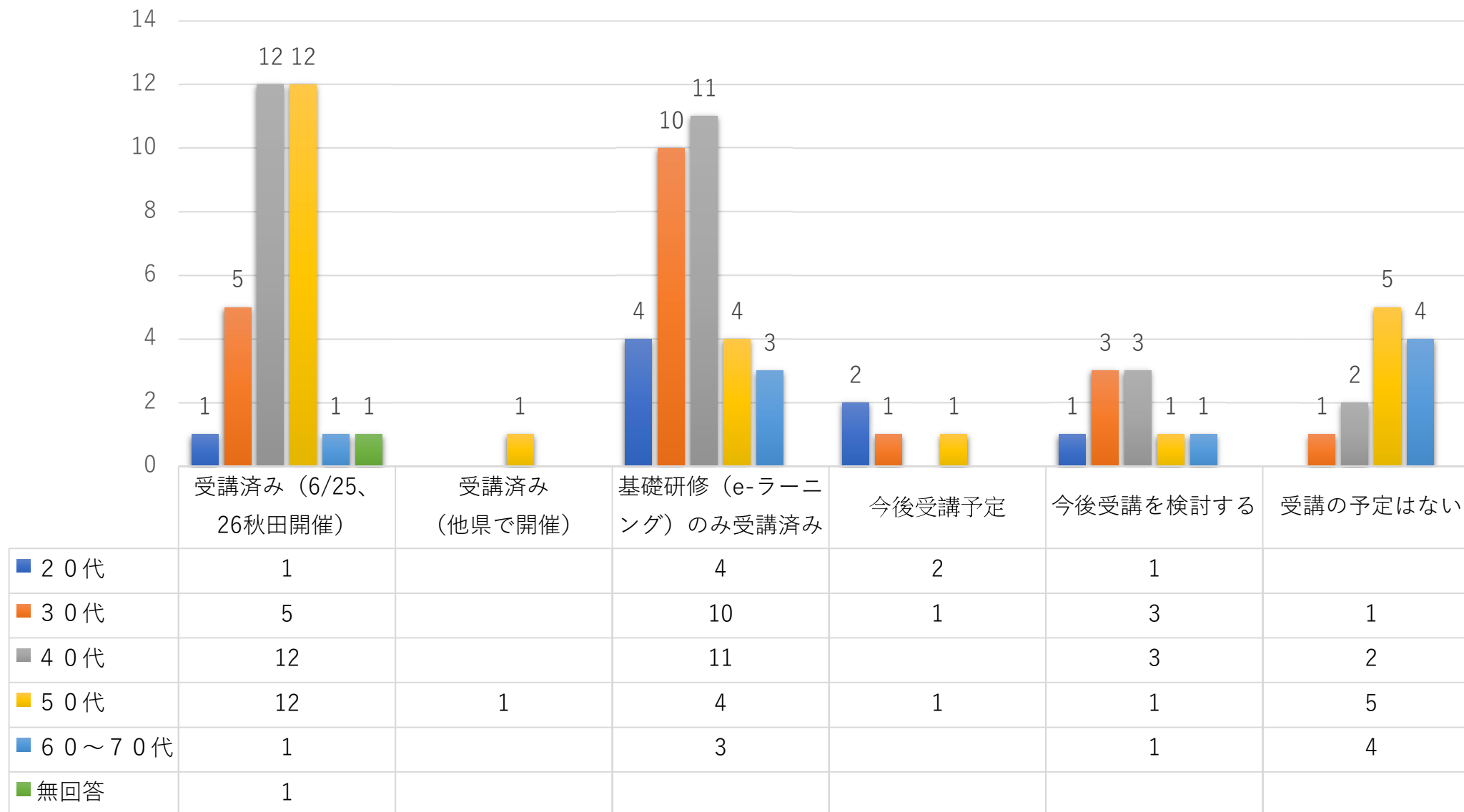
基礎研修 (e-ラーニング) 受講中(8) → Q16

今後受講予定(4) → Q16

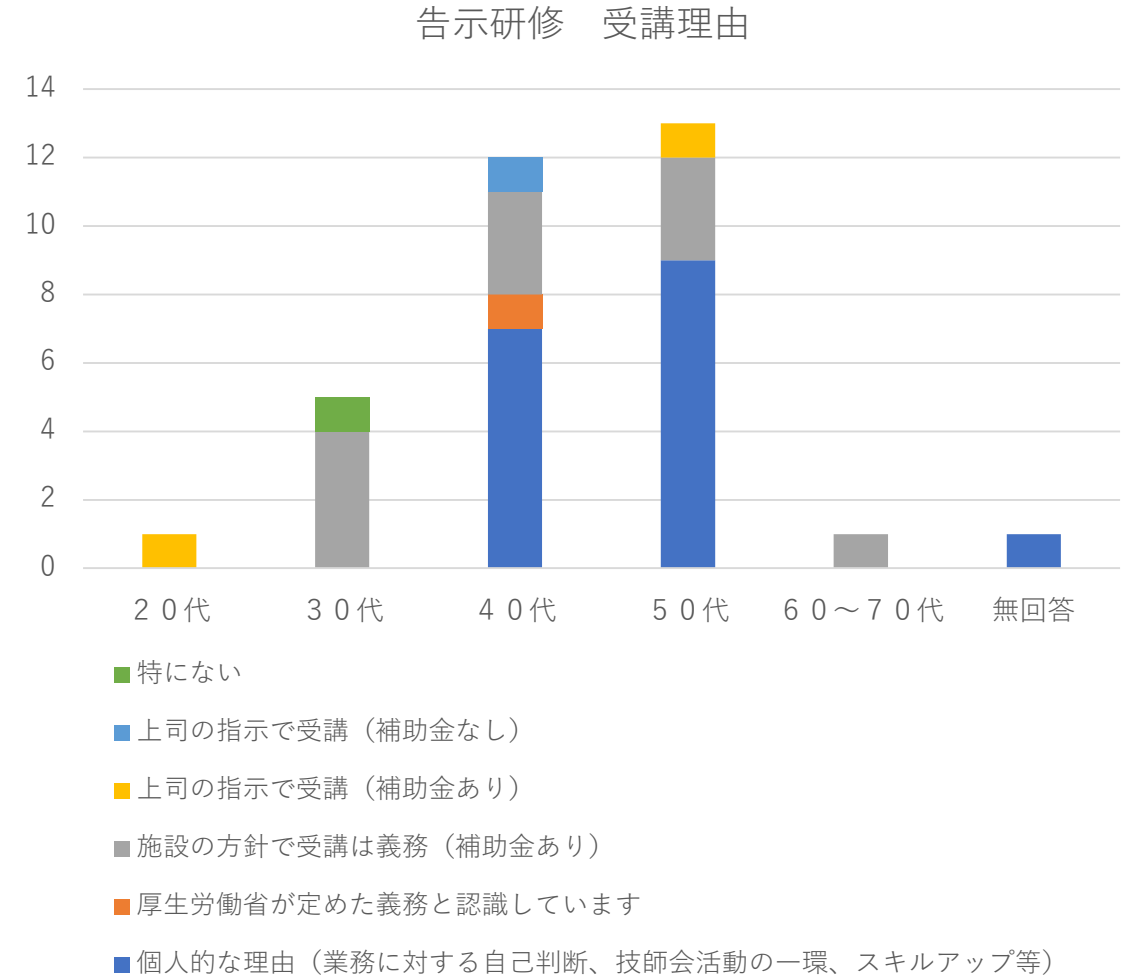
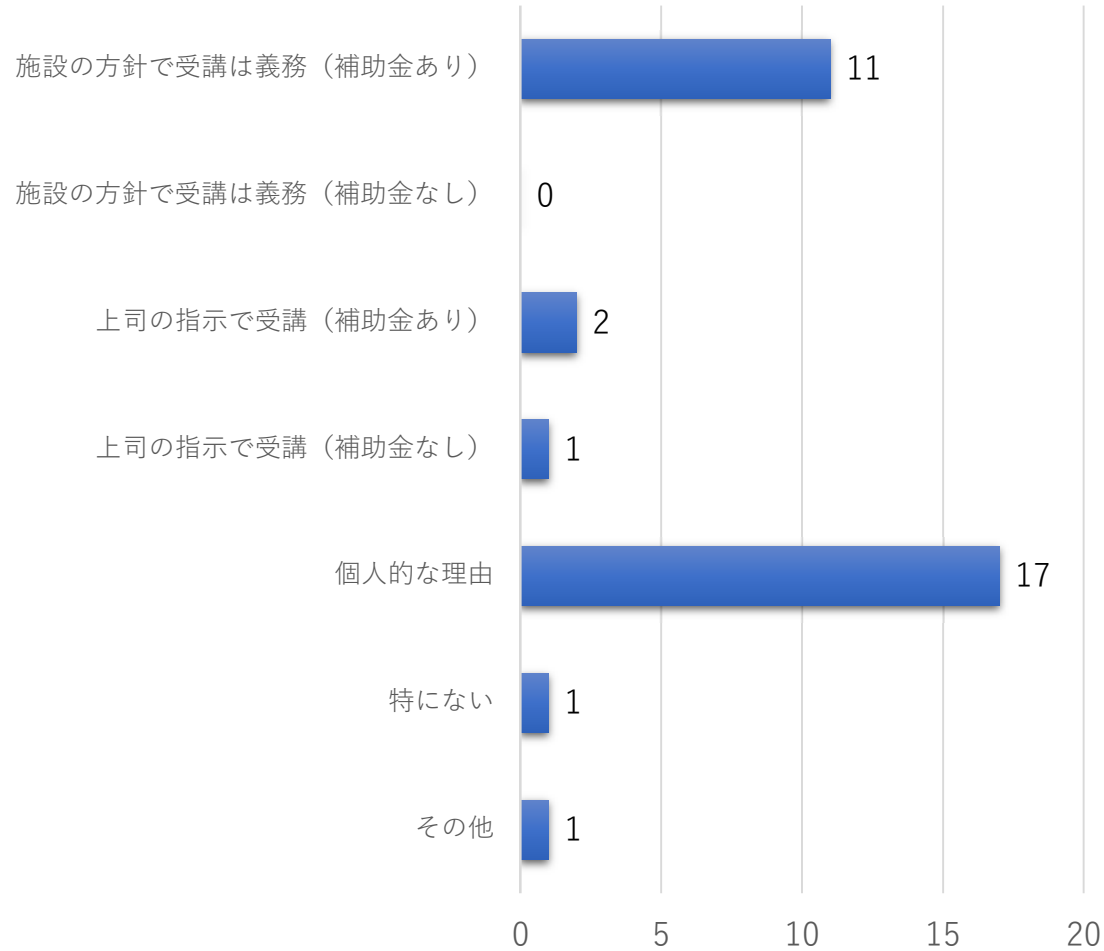
今後受講を検討する(9) → Q16

受講の予定はない(12) → Q17, Q17-2

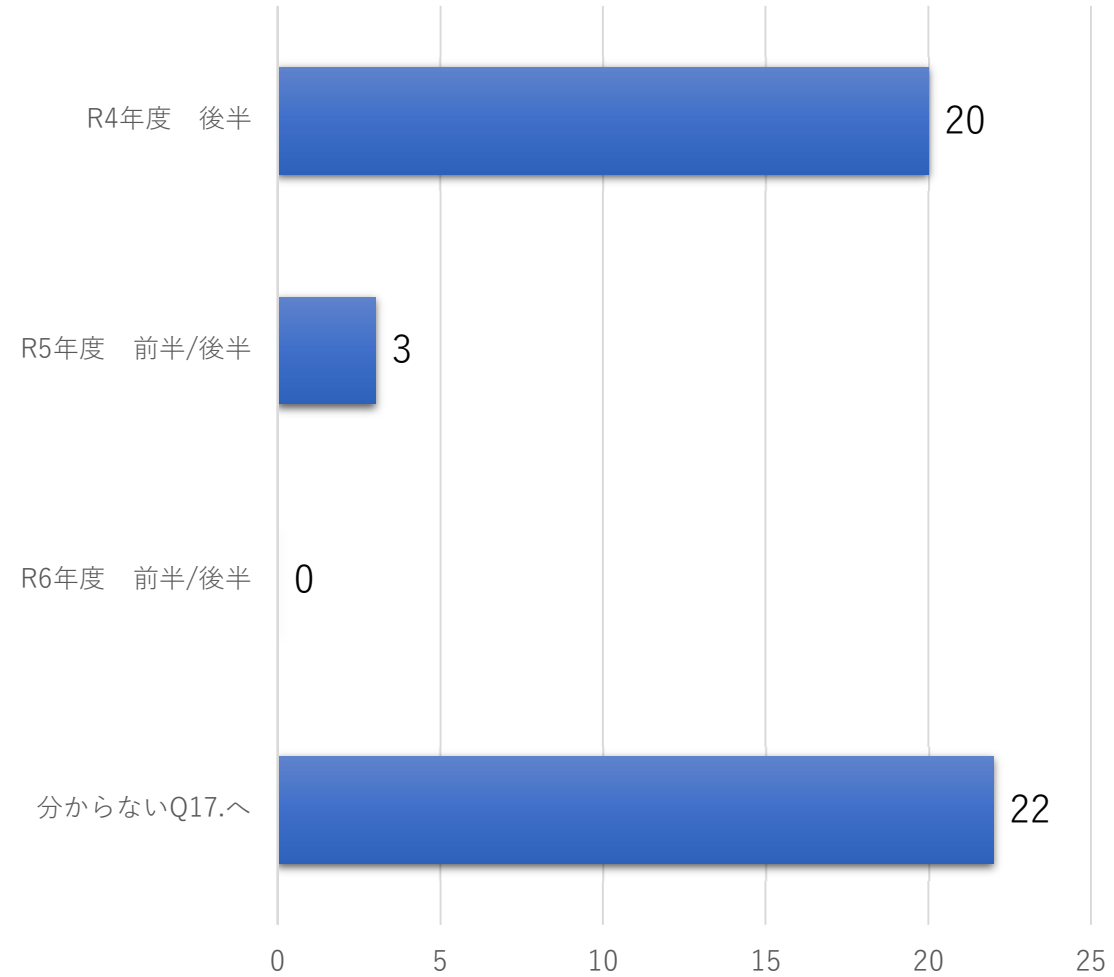
Q14. 既に告示研修は始まっておりますが、現在の受講状況を教えてください（年代別）



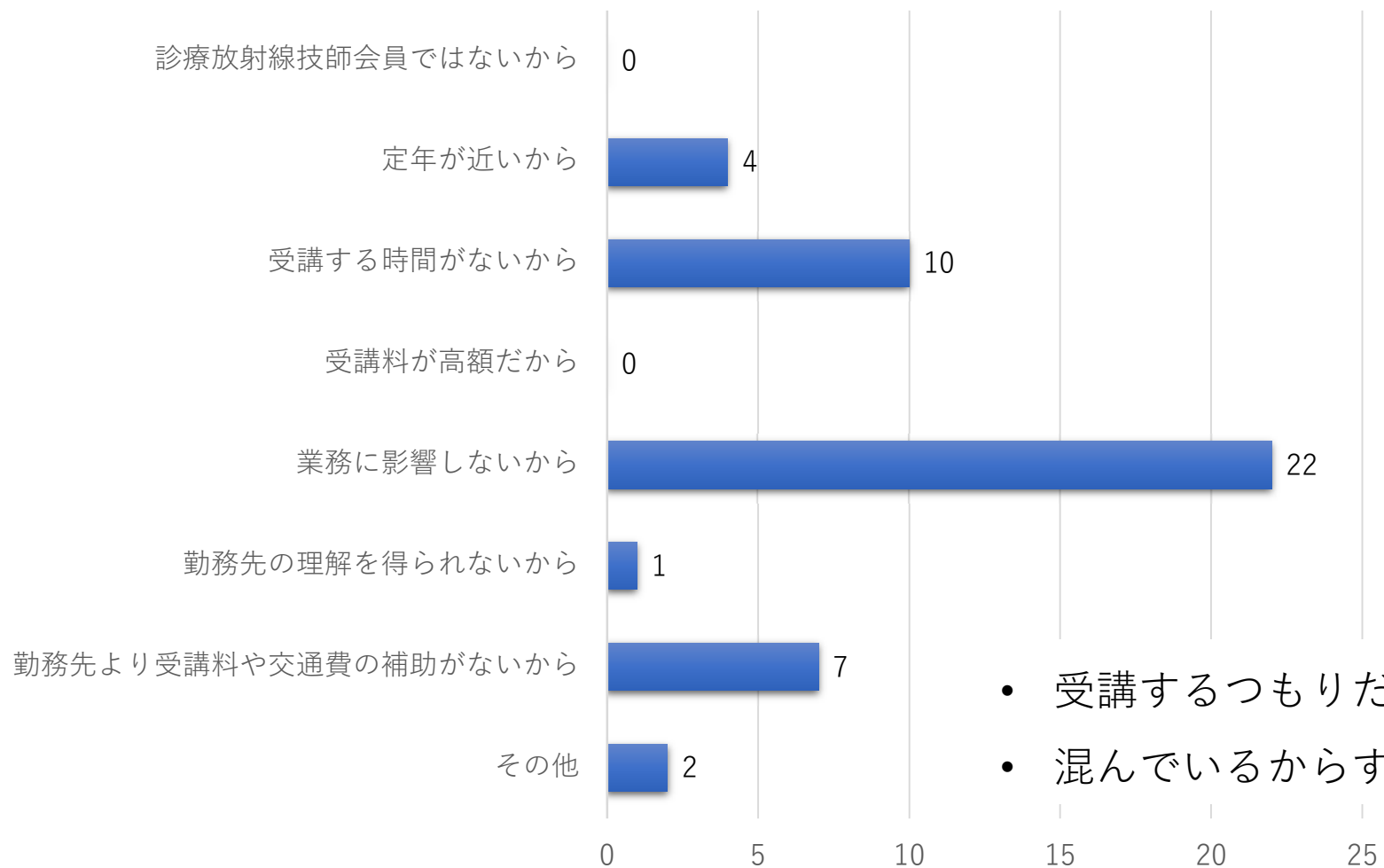
Q15. 受講した理由を教えてください



Q16. いつ頃に受講予定ですか

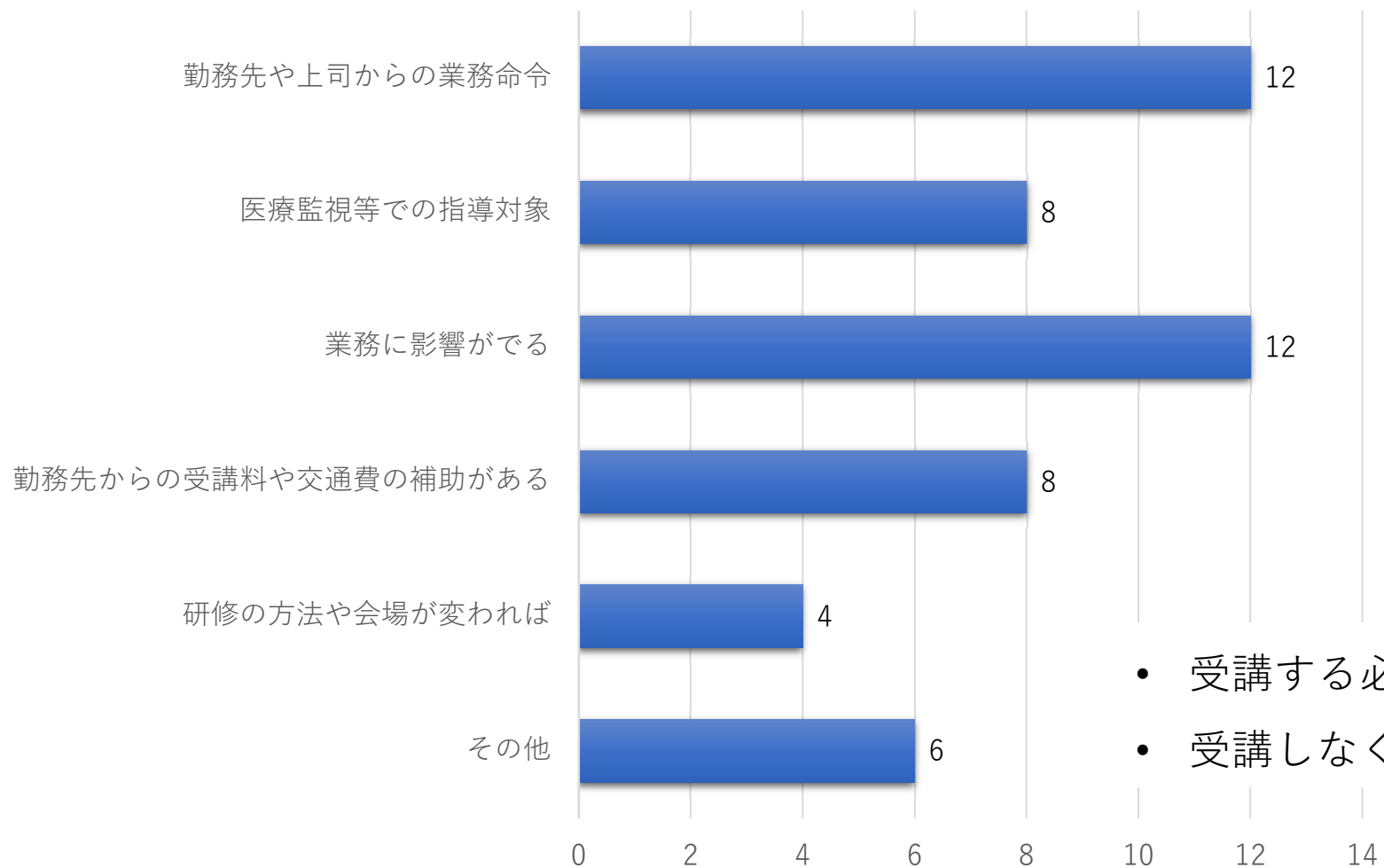


Q17. 受講予定のない方, まだ予定のわからない方へ理由に近いものを教えてください (複数回答)



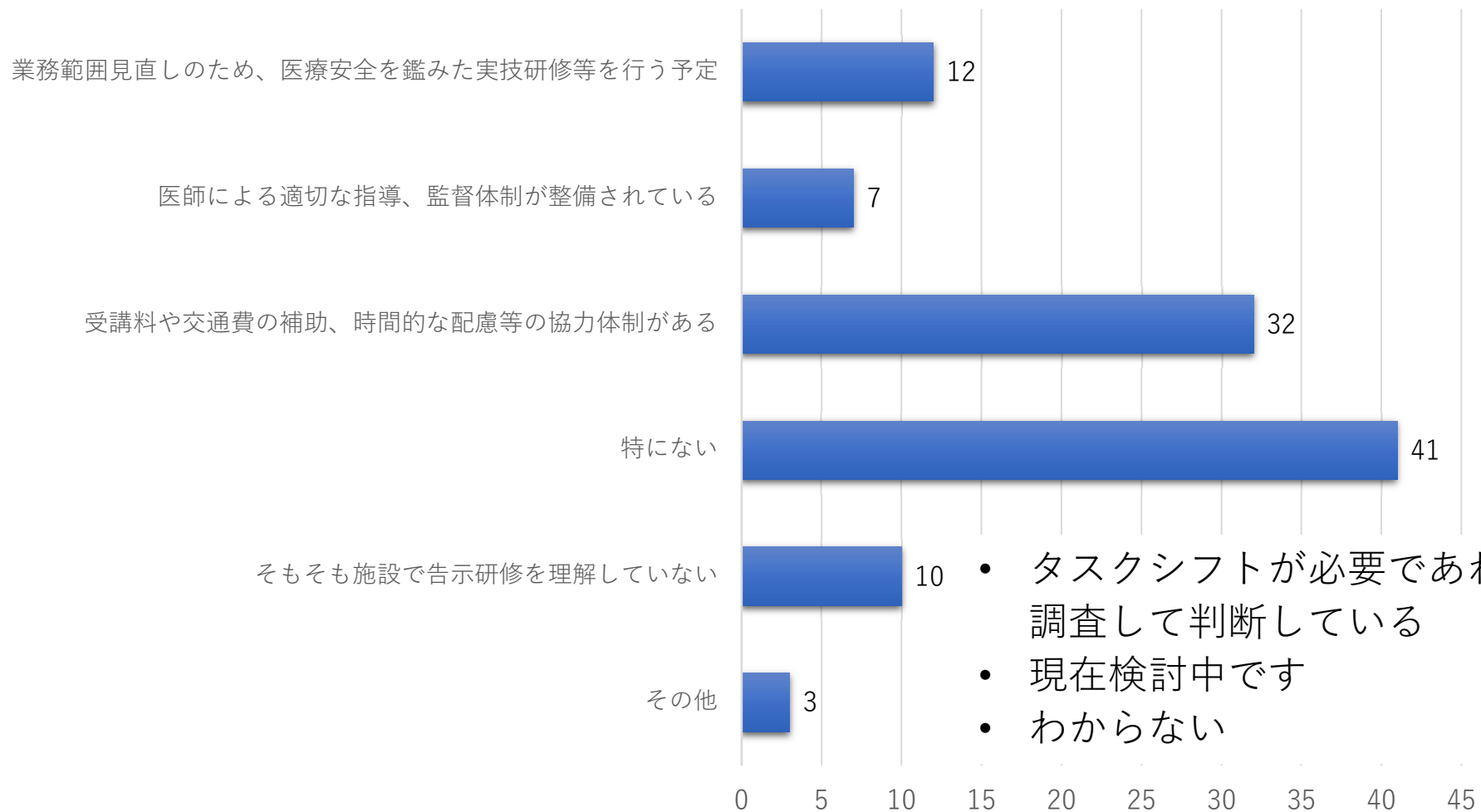
- 受講するつもりだが状況を見て受講時期を決めたい
- 混んでいるからすぐ定員に達してしまう

Q17-2. 受講予定のない方，まだ予定のわからない方へ受講を検討するための理由に近いものを教えてください（複数回答）



- 受講する必要があるものと考えている
- 受講しなくても今の業務に影響がないから

Q18. 貴施設において、告示研修に対する認識や対応を教えてください（複数回答）



- タスクシフトが必要であれば受講させる意向なので調査して判断している
- 現在検討中です
- わからない

小括 3 ①

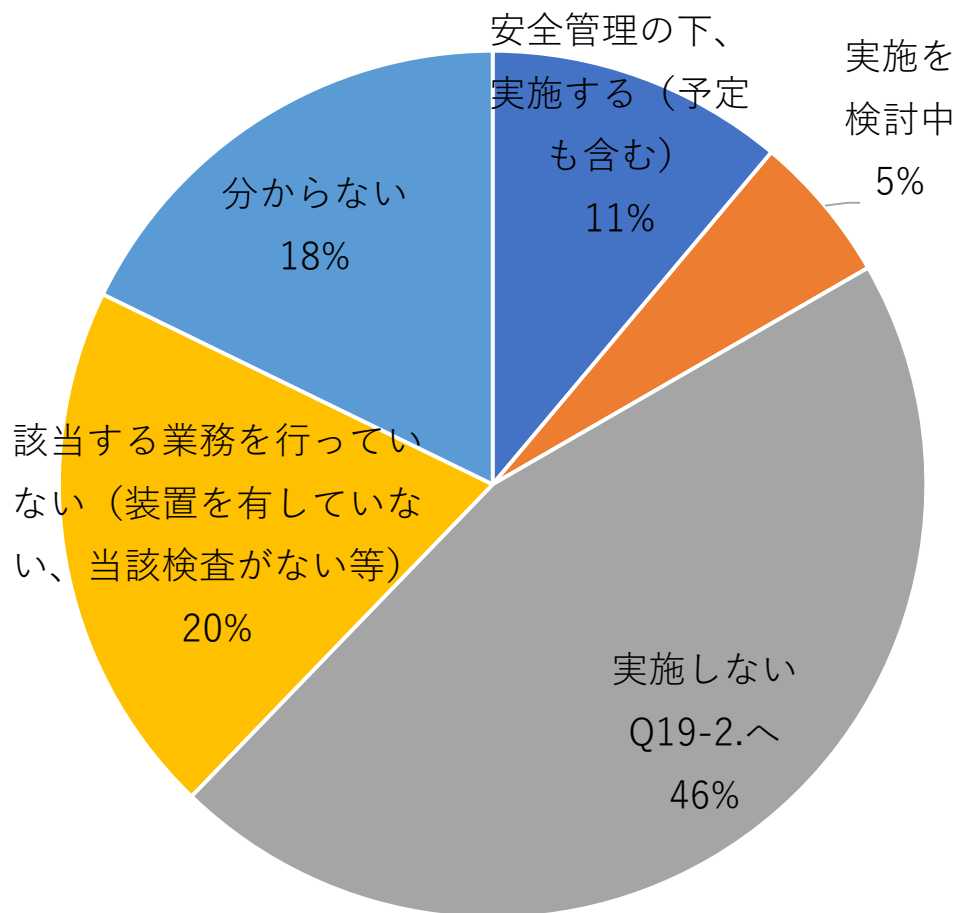
- 診療放射線技師の業務範囲が見直されたこと、追加業務を行う場合、告示研修の受講が義務付けられたこと、告示研修が基礎と実技から構成されていることは、ほぼ認知されていた。
- 実技講習の地方開催は令和6年頃までと約半数が認識せず、広く告知が必要である。
- 回答者の受講状況は概ね良好で、受講の検討まで含めると、約9割であるが、受講の予定のない50代以降の技師が1割存在する。
- 受講理由が個人的なものである回答が多く、個々のモチベーションによることがうかがえた。

小括 3 ②

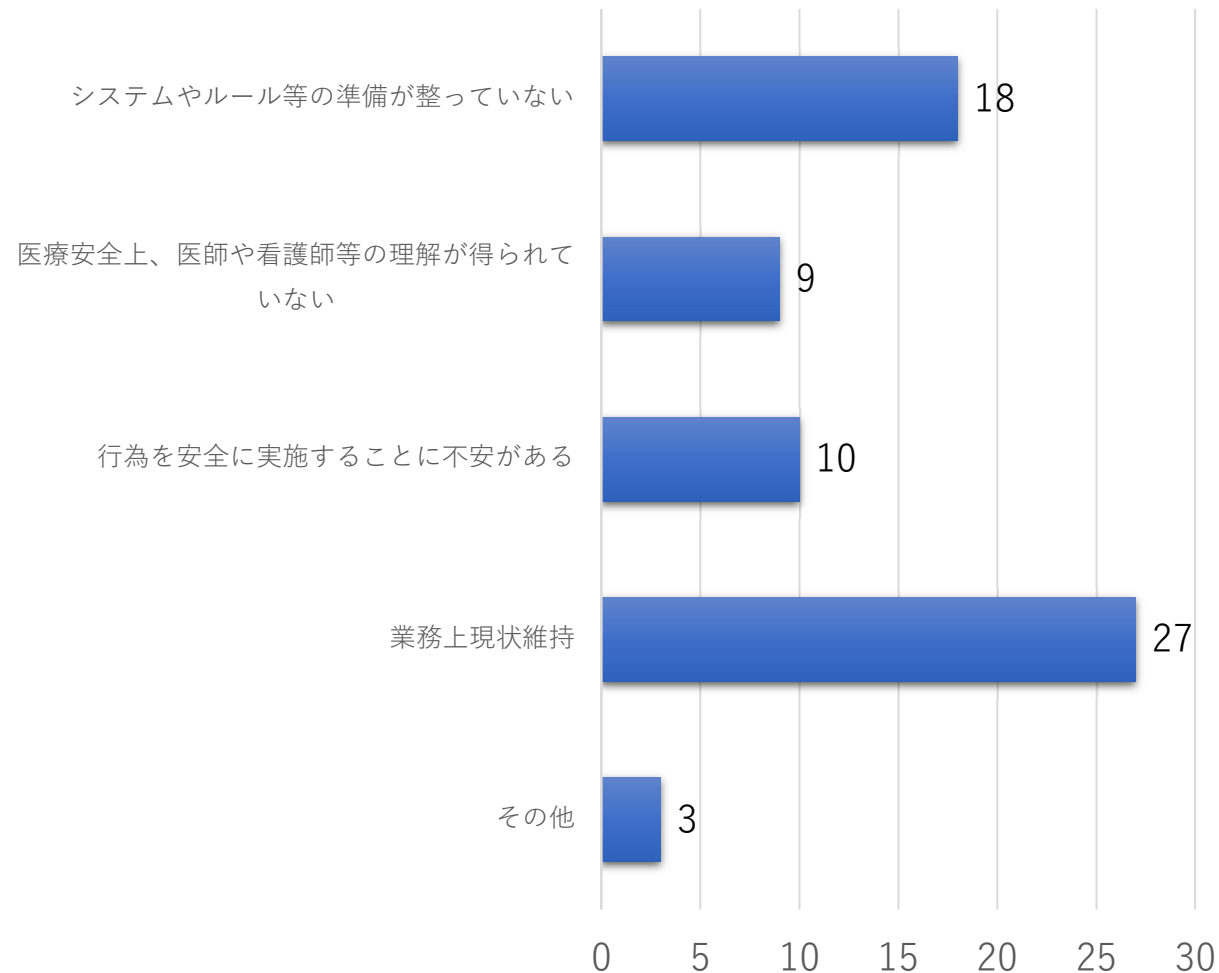
- 未受講者のうち、予定していない理由に「業務に影響しない」が最も多く、次に「時間がない」「補助がない」と続き、検討する理由として「業務に影響が出る」「業務命令」が挙がっており、条件が揃えば受講する意思があるものと考えられる。
- タスク・シフト/シェアに対し、実践している施設や準備・協力体制が整っている施設がある反面、対応が遅れている施設もあることがうかがわれる。

4. 告示研修受講後の タスク・シフト/シェアに 関する質問

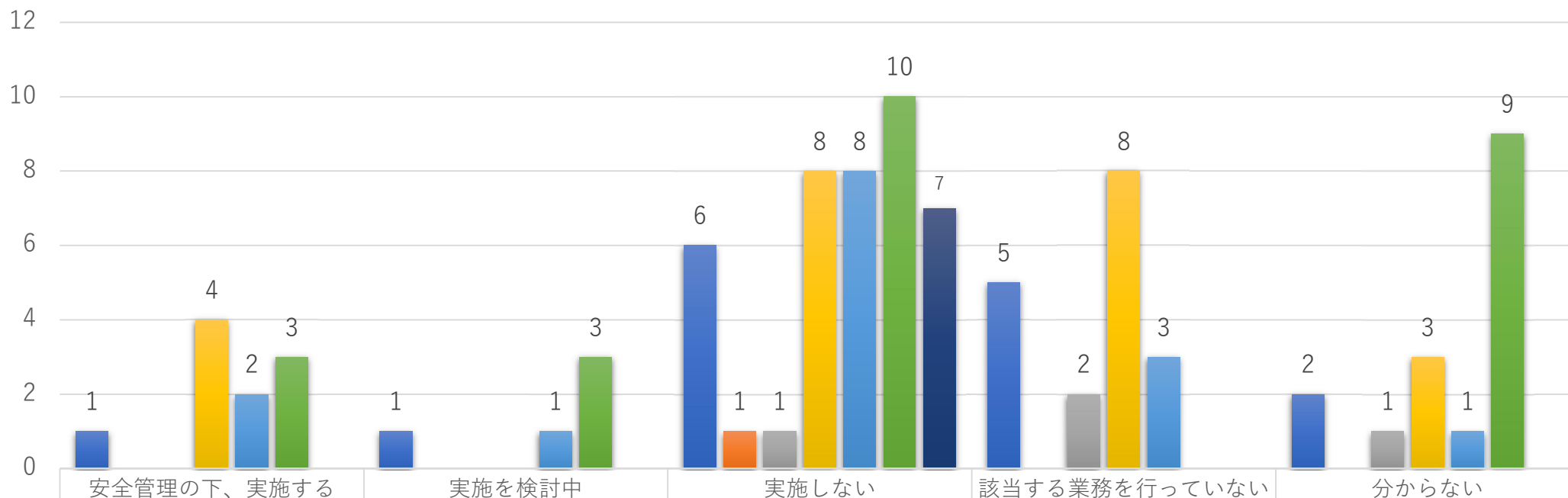
Q19. 造影検査やR I 検査のために静脈路を確保する行為、R I 検査医薬品の投与が終了された後に抜針及び止血を行う行為は実施されますか



Q19-2. 実施しない理由を教えてください（複数回答）

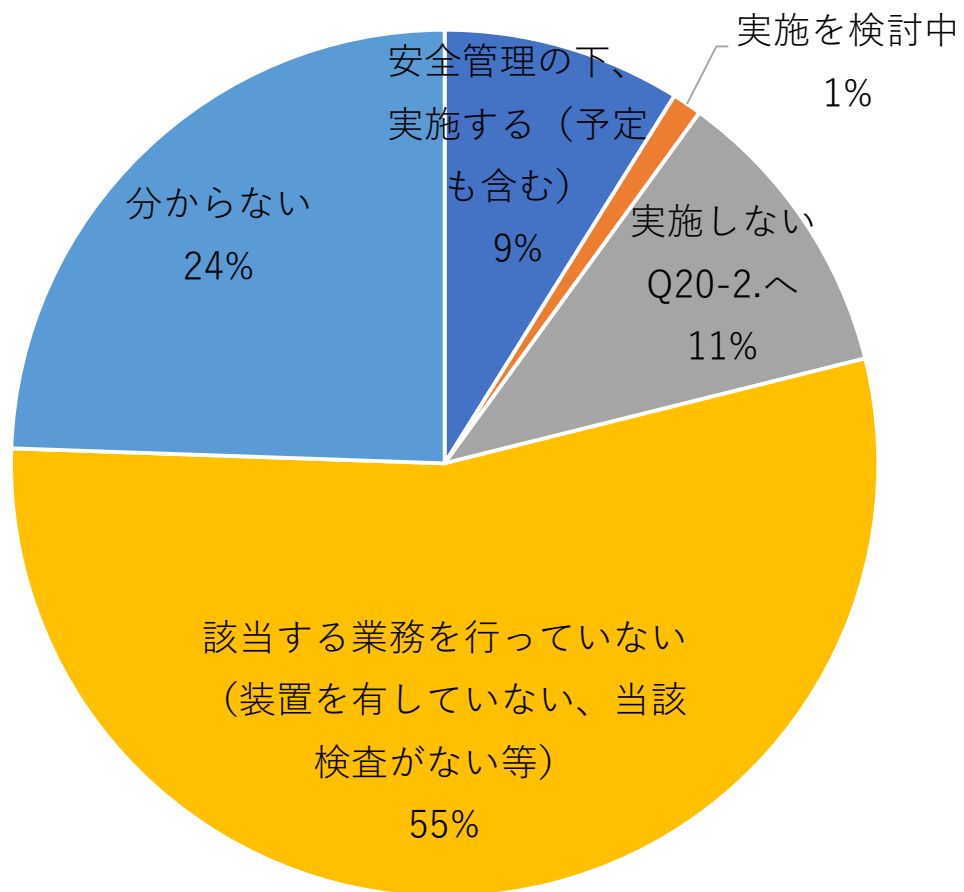


Q19. 造影検査やR I 検査のために静脈路を確保する行為、R I 検査医薬品の投与が終了された後に抜針及び止血を行う行為は実施されますか

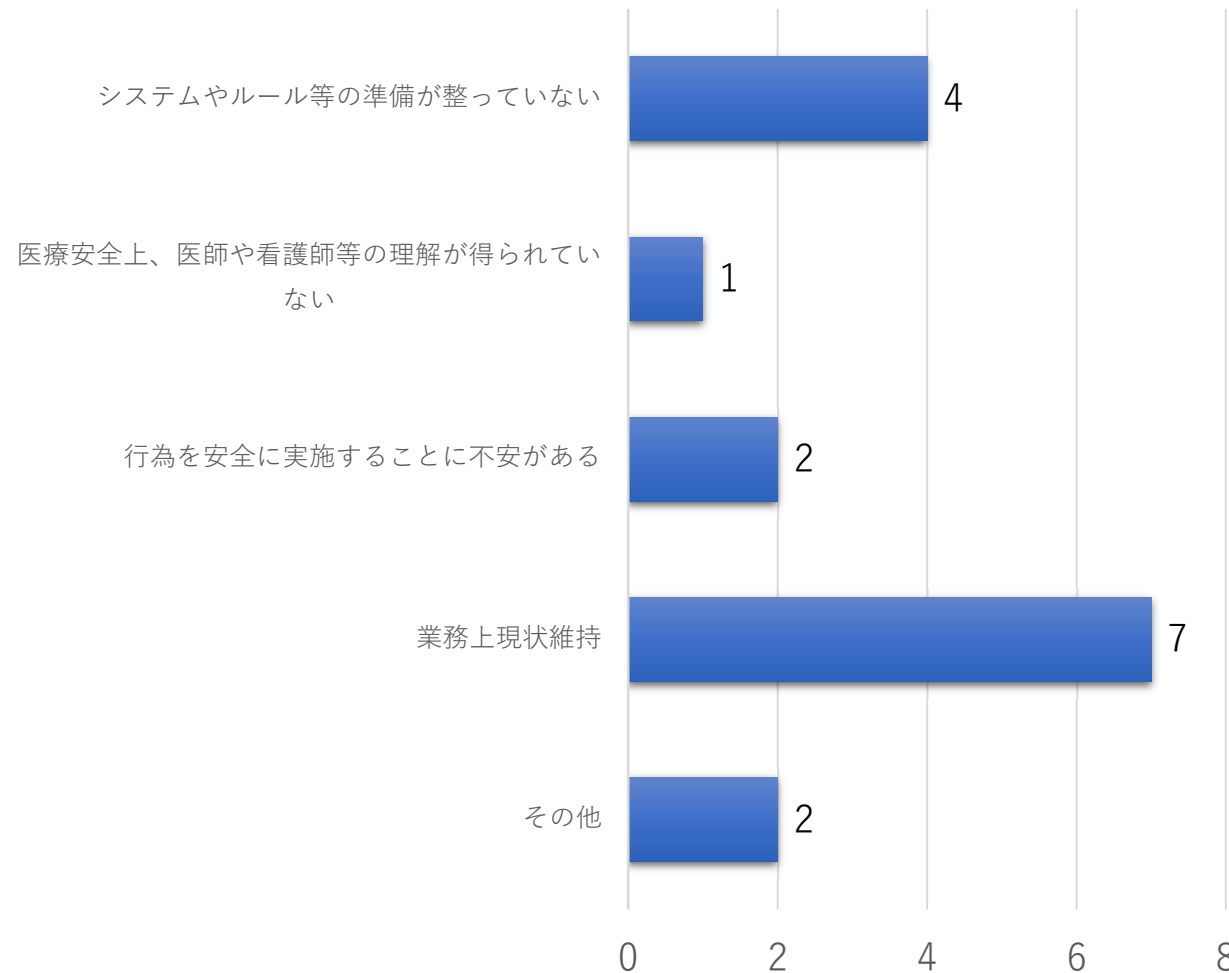


■ 診療所（無床）	1	1	6	5	2
■ 診療所（有床）			1		
■ 20～99床			1	2	1
■ 100～199床	4		8	8	3
■ 200～299床	2	1	8	3	1
■ 300～499床	3	3	10		9
■ 500床以上			7		

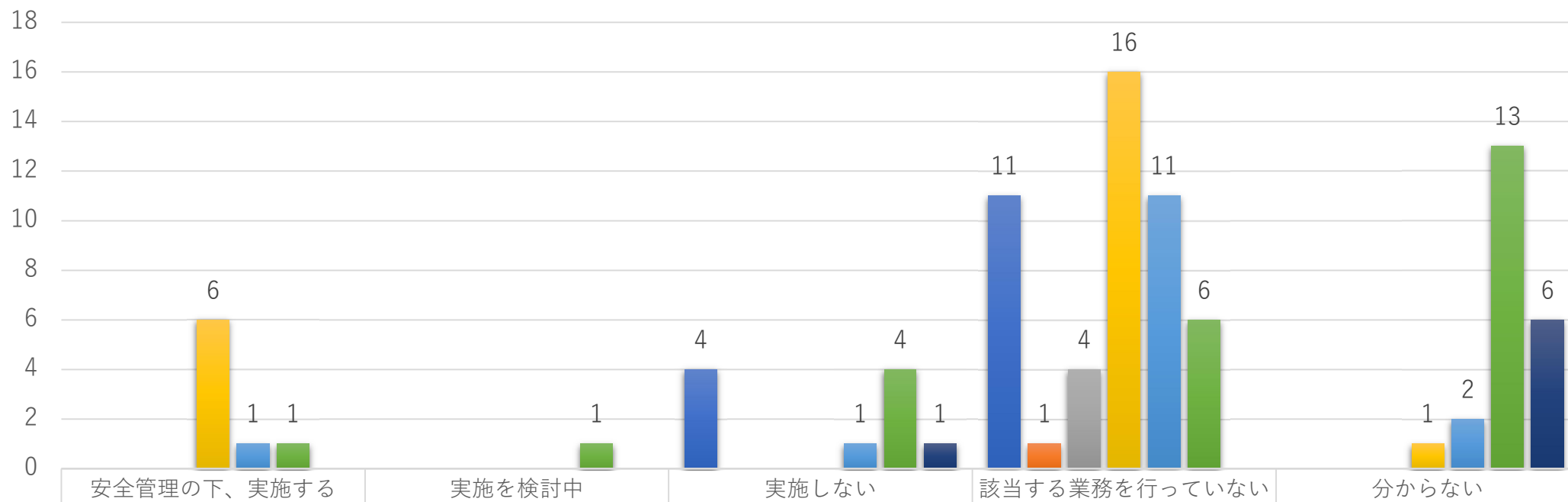
Q20. R I 検査のために R I 検査医薬品を注入するための装置を接続し，該当装置を操作する行為は実施されますか



Q20-2. 実施しない理由を教えてください (複数回答)

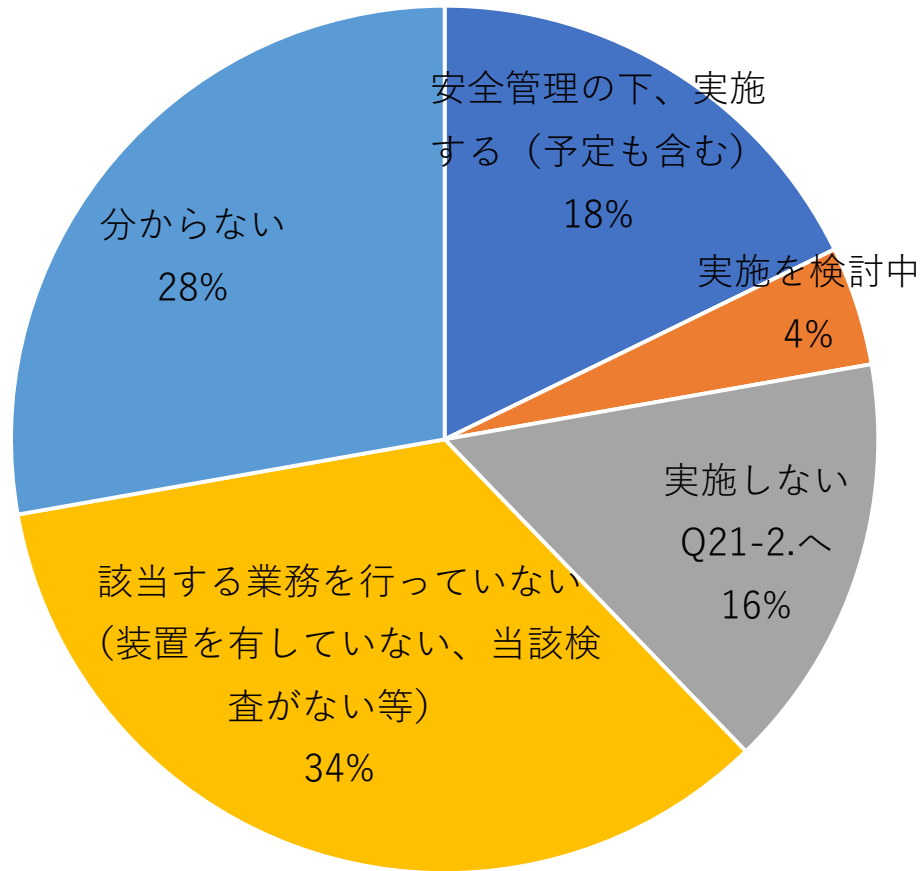


Q20. R I 検査のために R I 検査医薬品を注入するための装置を接続し，該当装置を操作する行為は実施されますか

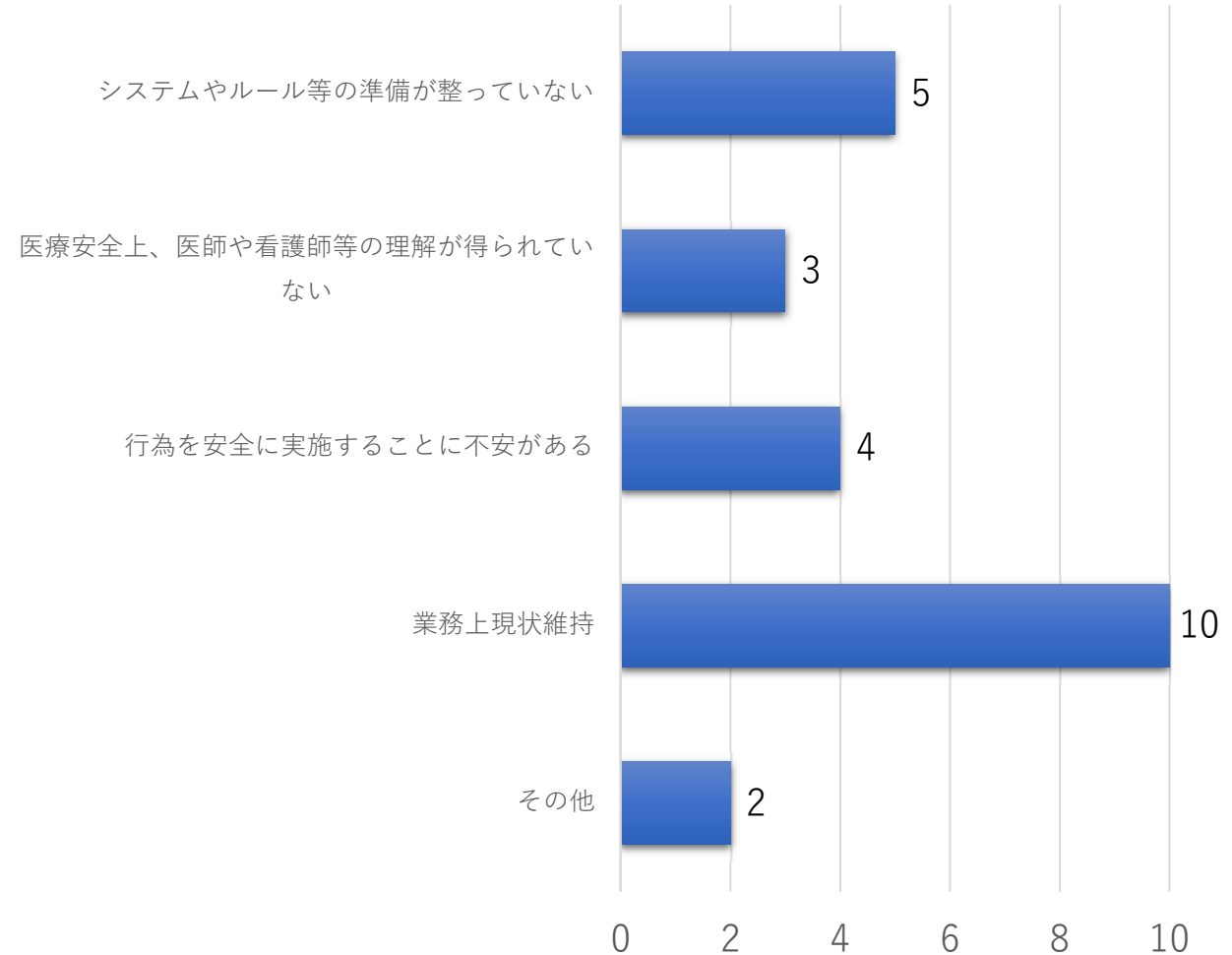


■ 診療所（無床）			4	11	
■ 診療所（有床）				1	
■ 20～99床				4	
■ 100～199床	6			16	1
■ 200～299床	1		1	11	2
■ 300～499床	1	1	4	6	13
■ 500床以上			1		6

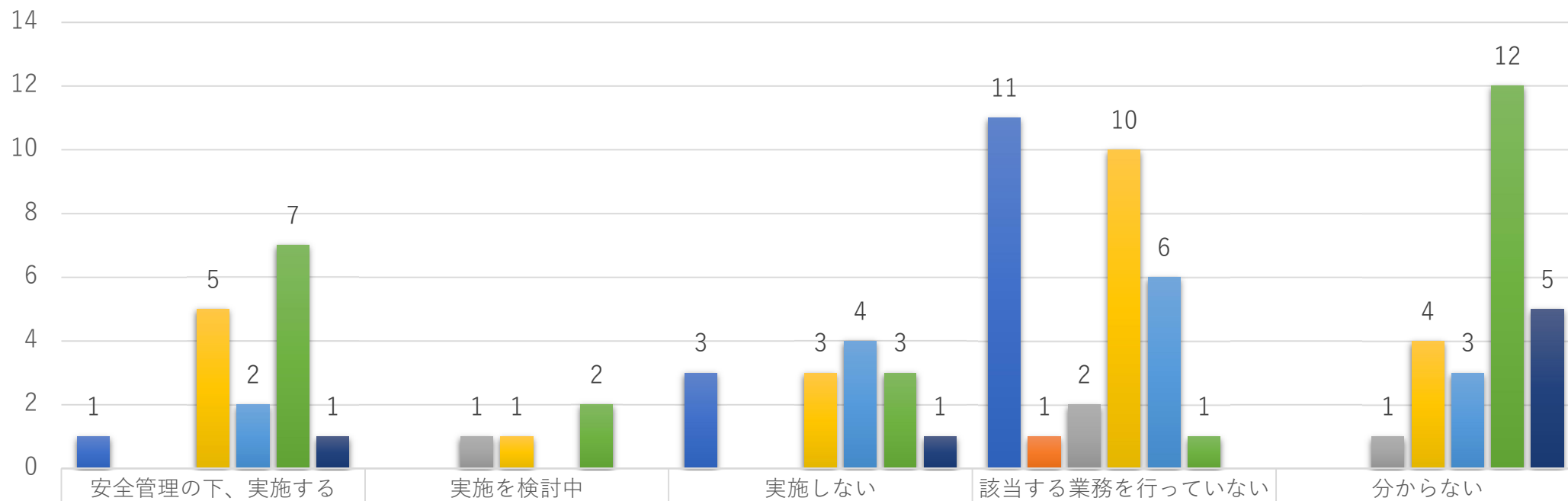
Q21. 動脈路に造影剤注入装置を接続する行為、
動脈に造影剤を投与するために造影剤注入装置
を操作する行為は実施されますか



Q21-2. 実施しない理由を教えてください
（複数回答）

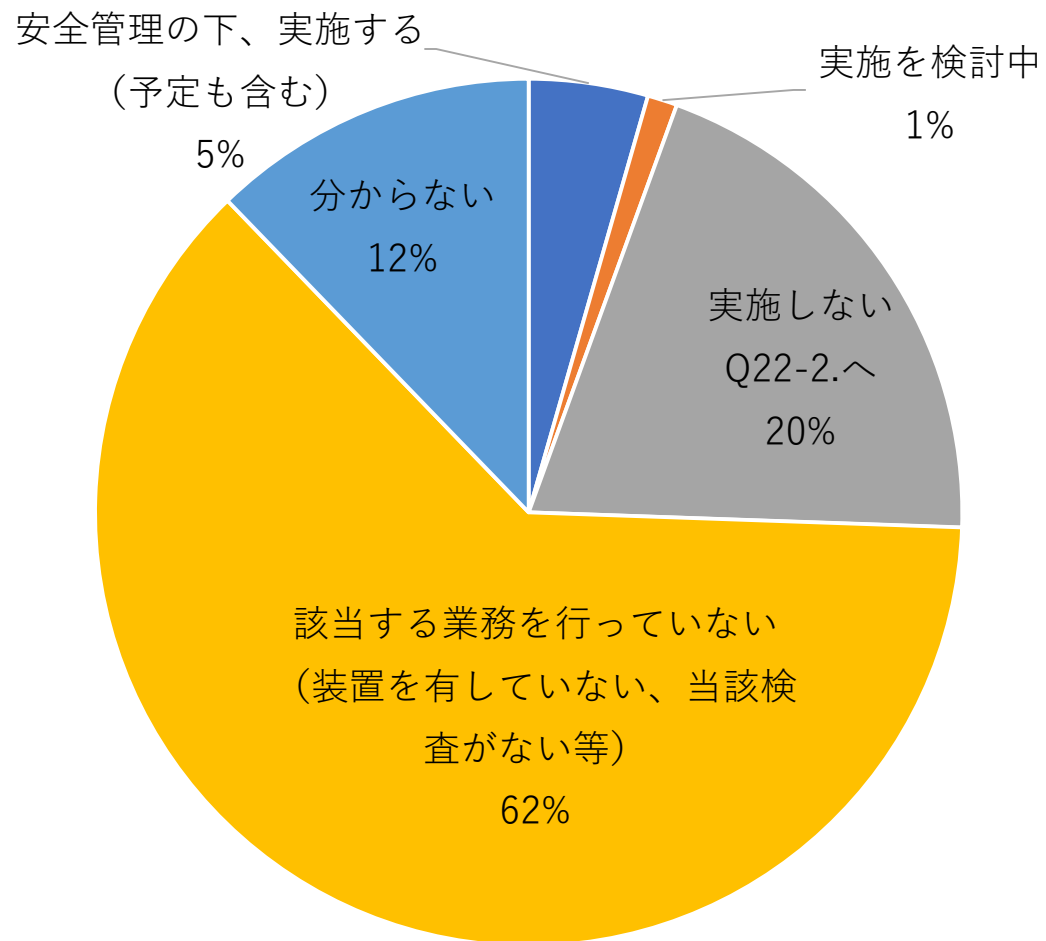


Q21. 動脈路に造影剤注入装置を接続する行為、動脈に造影剤を投与するために造影剤注入装置を操作する行為は実施されますか

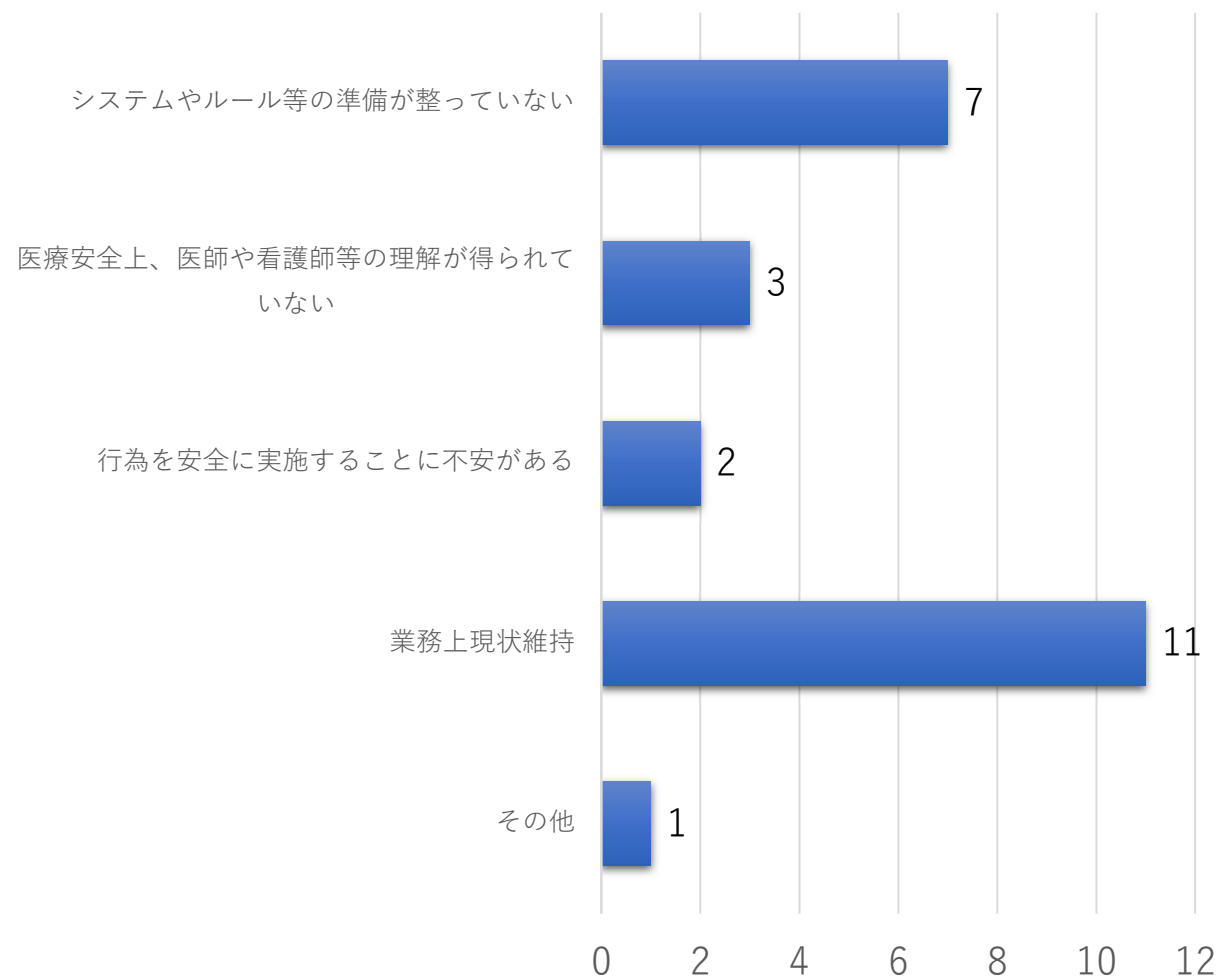


■ 診療所（無床）	1		3	11	
■ 診療所（有床）				1	
■ 20～99床		1		2	1
■ 100～199床	5	1	3	10	4
■ 200～299床	2		4	6	3
■ 300～499床	7	2	3	1	12
■ 500床以上	1		1		5

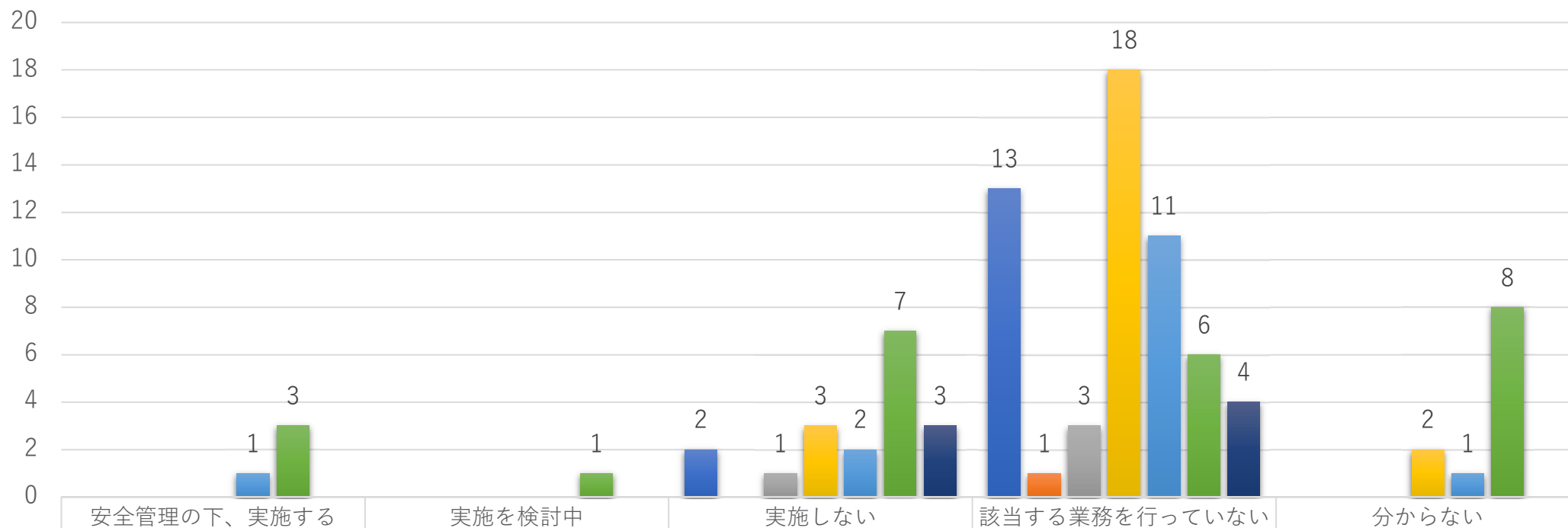
Q22. 下部消化管検査のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為を実施されますか



Q22-2. 実施しない理由を教えてください (複数回答)

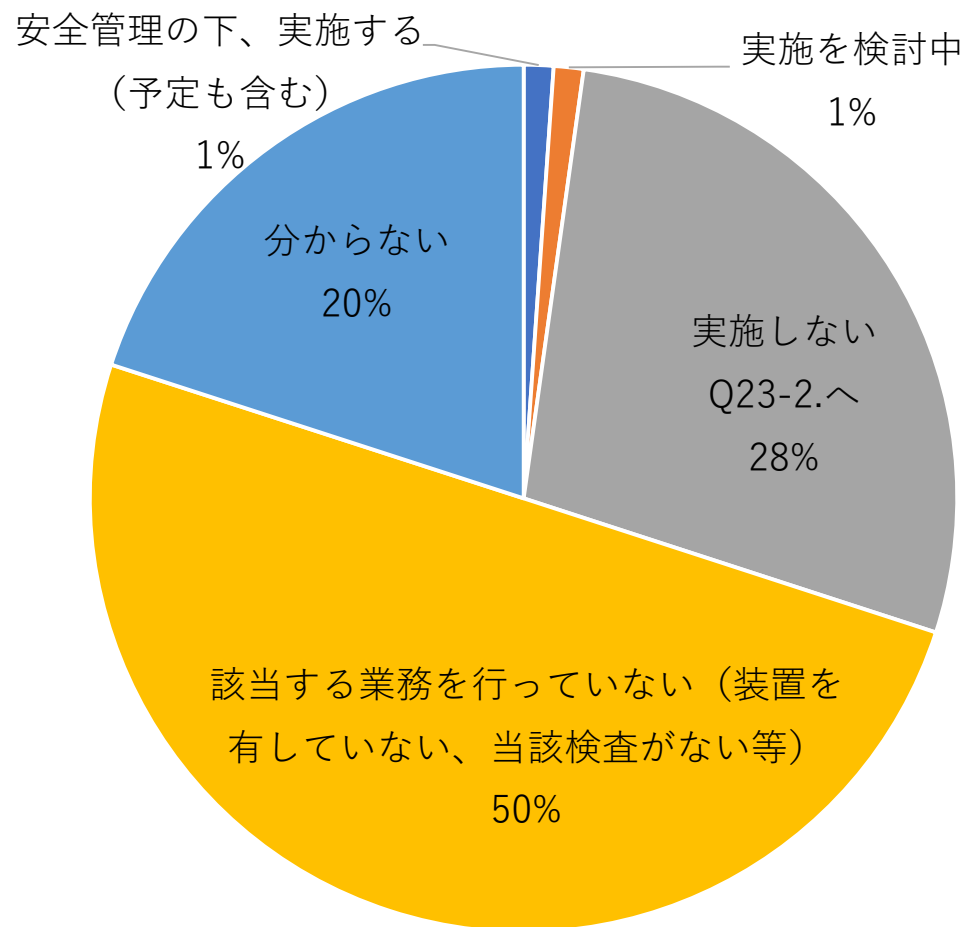


Q22. 下部消化管検査のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為を実施されますか

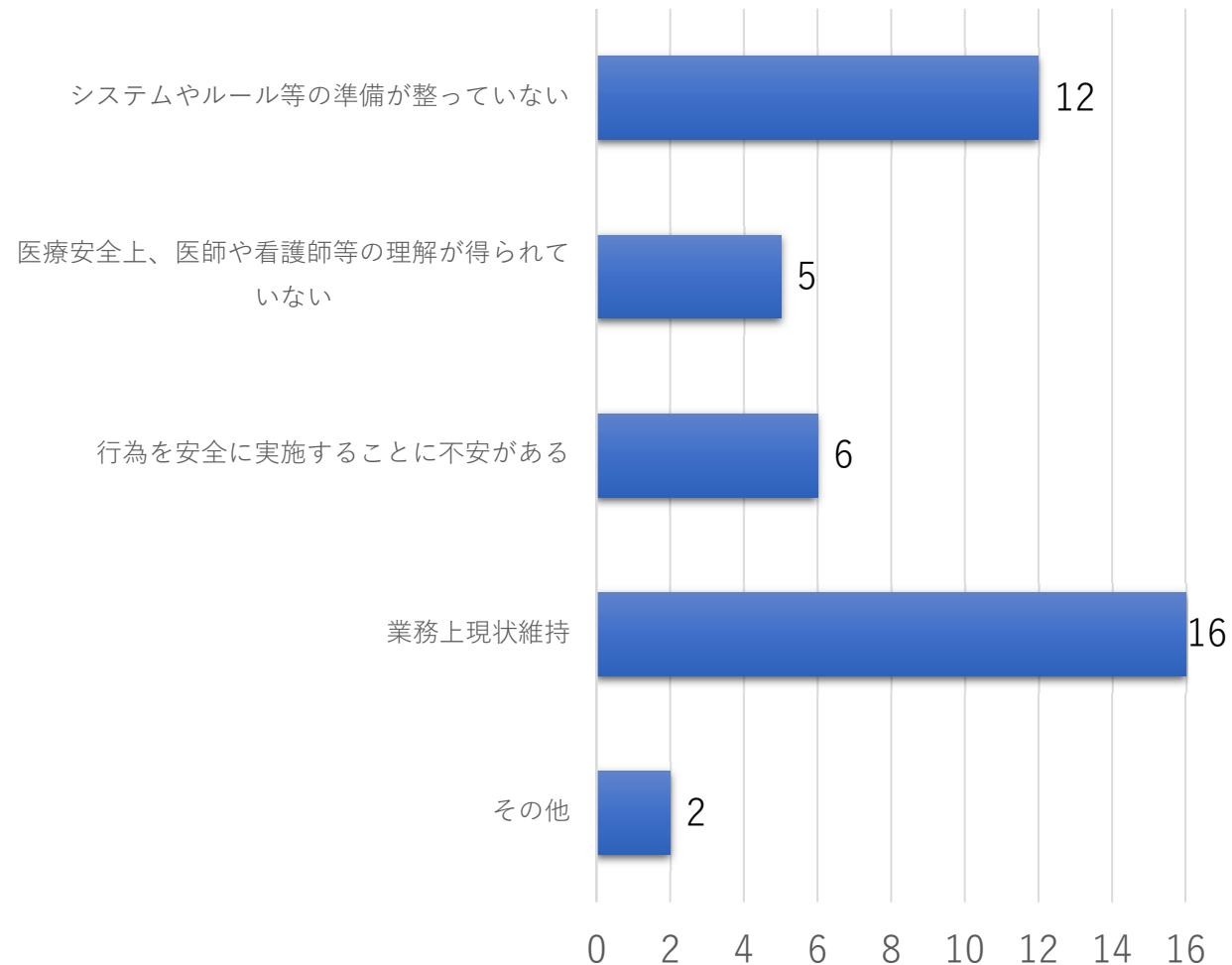


■ 診療所（無床）			2	13	
■ 診療所（有床）				1	
■ 20～99床			1	3	
■ 100～199床			3	18	2
■ 200～299床	1		2	11	1
■ 300～499床	3	1	7	6	8
■ 500床以上			3	4	

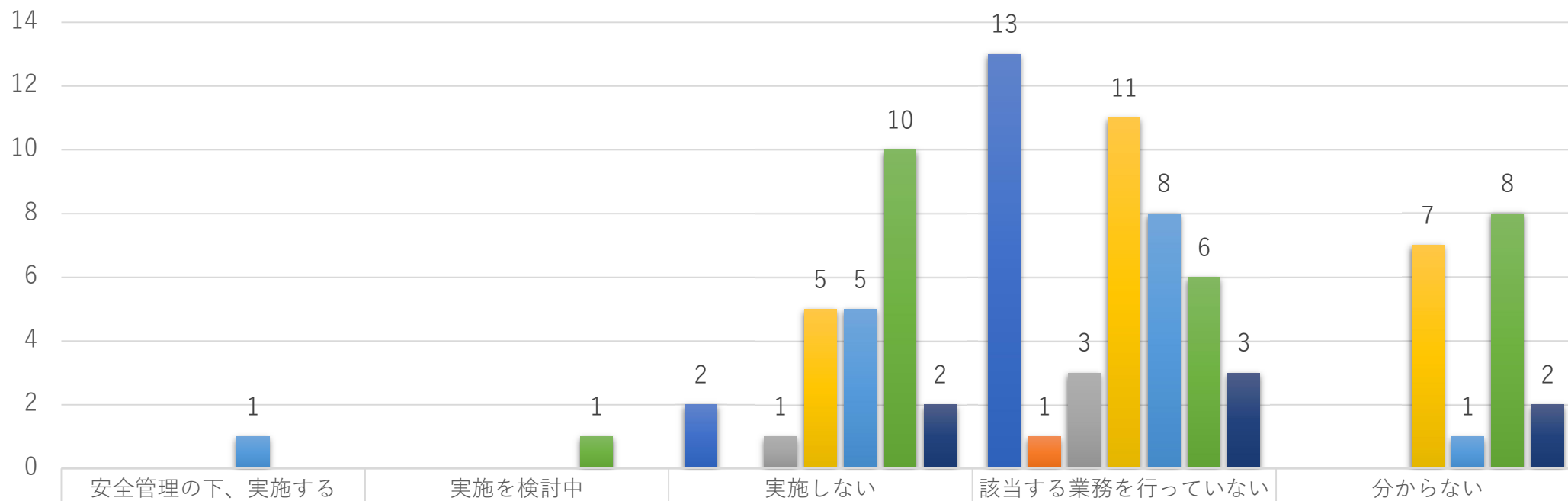
Q23. 上部消化管のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入及び、終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する行為を実施されますか



Q23-2. 実施しない理由を教えてください (複数回答)

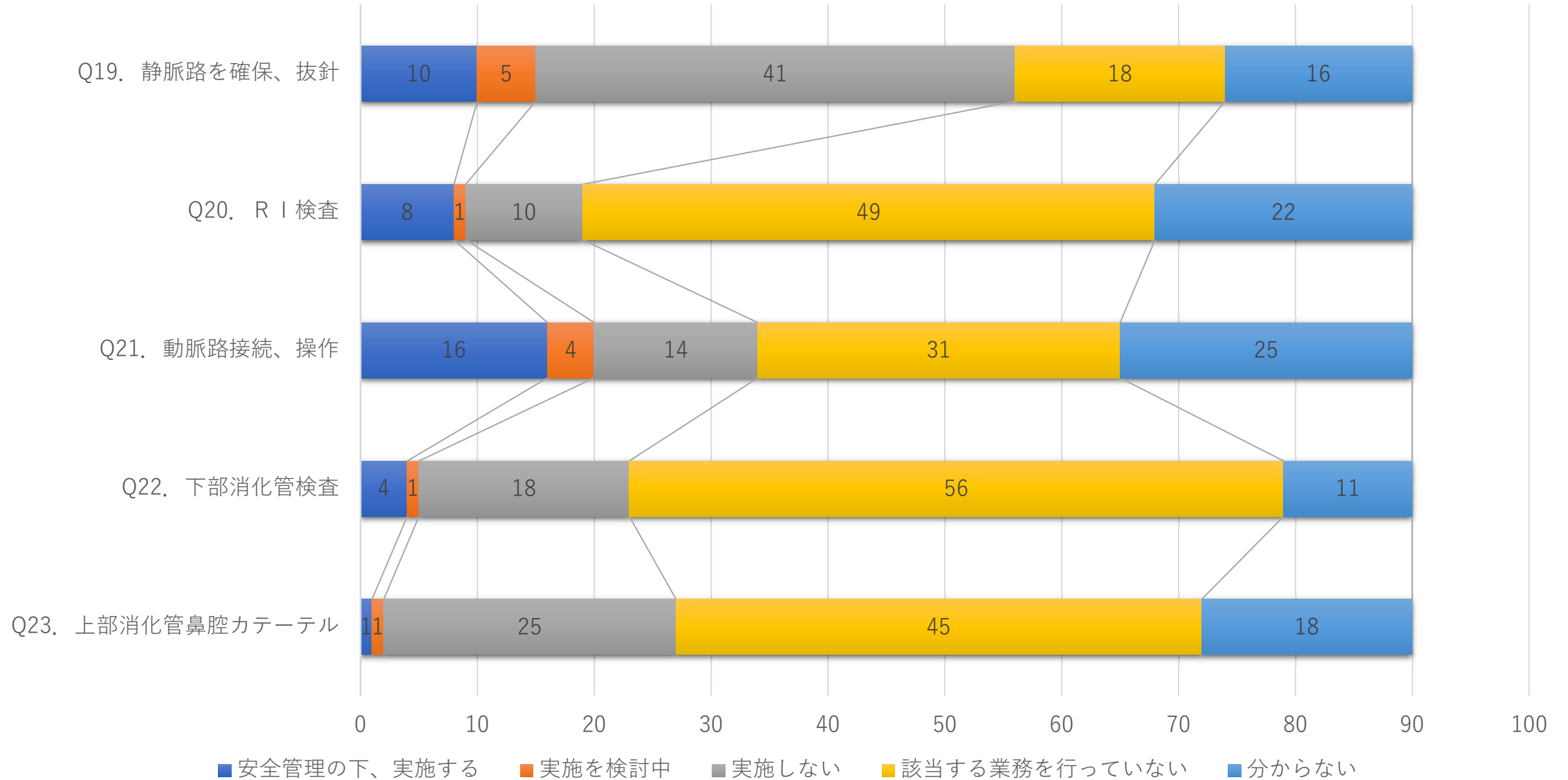


Q23. 上部消化管のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入及び、終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する行為を実施されますか

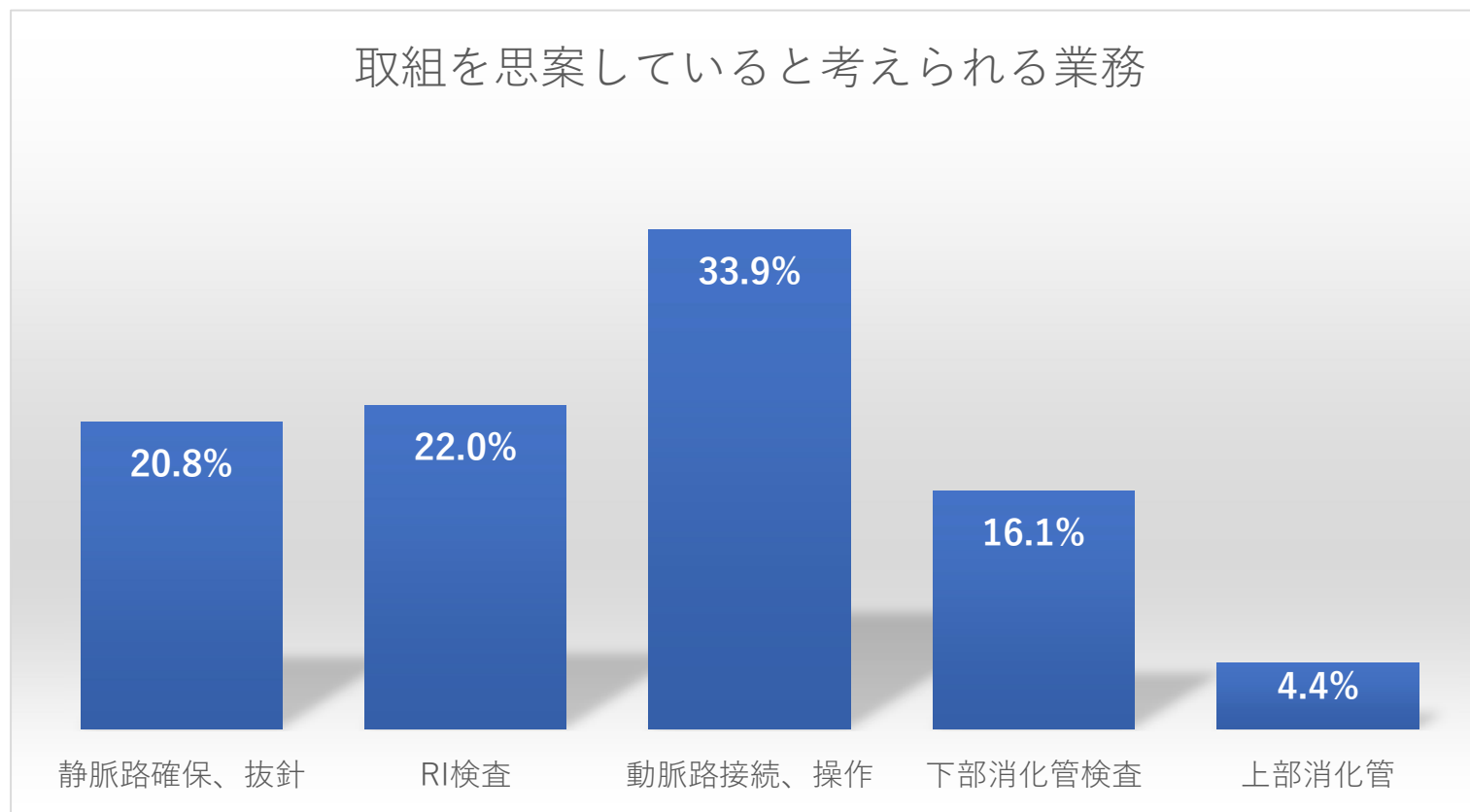


■ 診療所（無床）			2	13	
■ 診療所（有床）				1	
■ 20～99床			1	3	
■ 100～199床			5	11	7
■ 200～299床	1		5	8	1
■ 300～499床		1	10	6	8
■ 500床以上			2	3	2

告示研修後のタスク・シフト/シェア実施比較



※さらに深掘り



方法：“該当する業務を行っていない”を除いた総数に対する，“安全管理の下、実施する”
“実施を検討中”の和を分子とする割合を比較。

結果：動脈路接続・操作（33%），RI検査（22%），静脈路確保・抜針（21%），下部消化管（16%），
上部消化管（4%）の順であった。

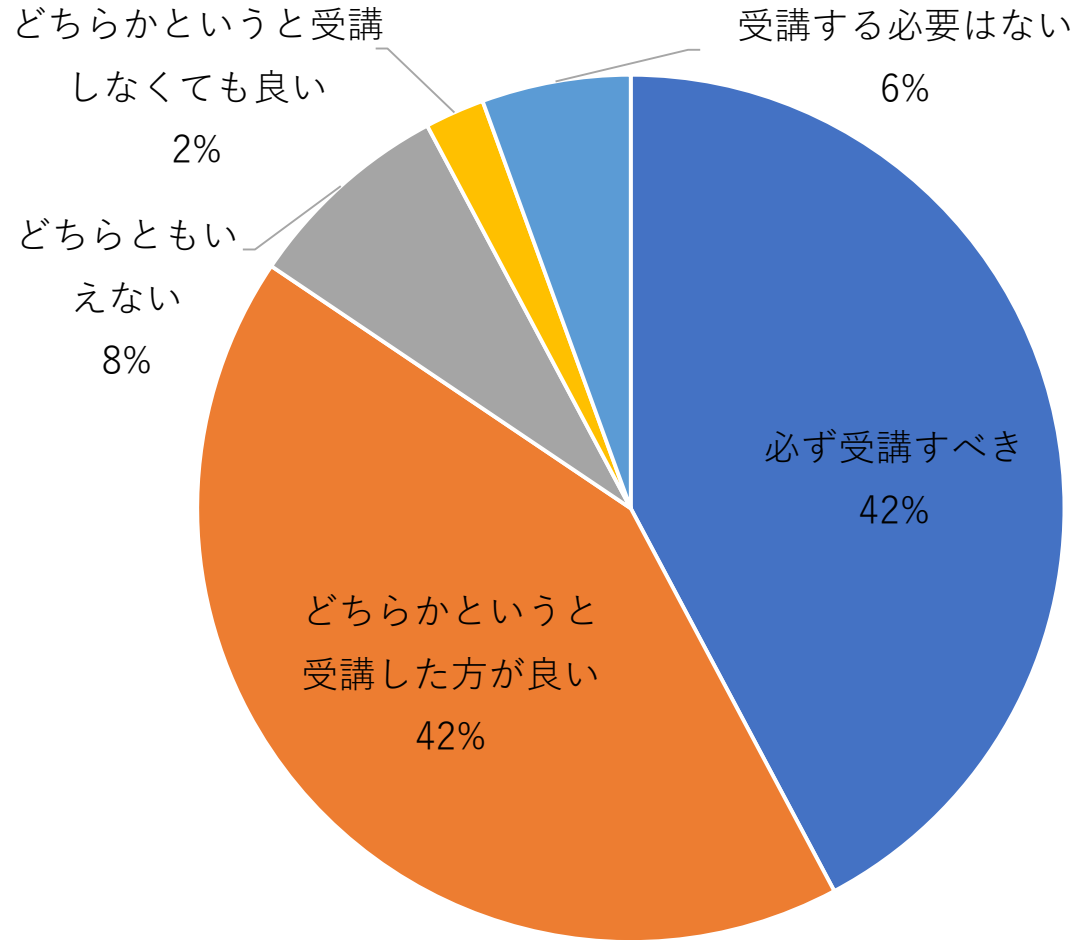
考察：上位4項目については，告示研修に意識の高い回答者は，取組を思案していることがうかがえた。
このような取組の姿勢が、周囲に波及することを期待する。

小括 4

- 実施するタスクシフト/シェアの項目で最も多いのは、動脈路接続・操作であった。
背景に、I V R等で直接的な医師の補助業務として各施設で組織的に取り組んでいるためと考える。
- 動脈路接続・操作に関しては検討中の技師もあり、実施する施設が増える可能性がある。
- 静脈路確保・抜針に関しては「現状実施する」「検討中」と回答した技師がいる反面、「実施しない」とした技師も半数近くと多く、業務への不安や負担を感じている結果と考える。

5. 告示研修に対する考えに 関する質問

Q24. 告示研修の受講をどのように考えますか



必ず受講すべき (38) → Q25

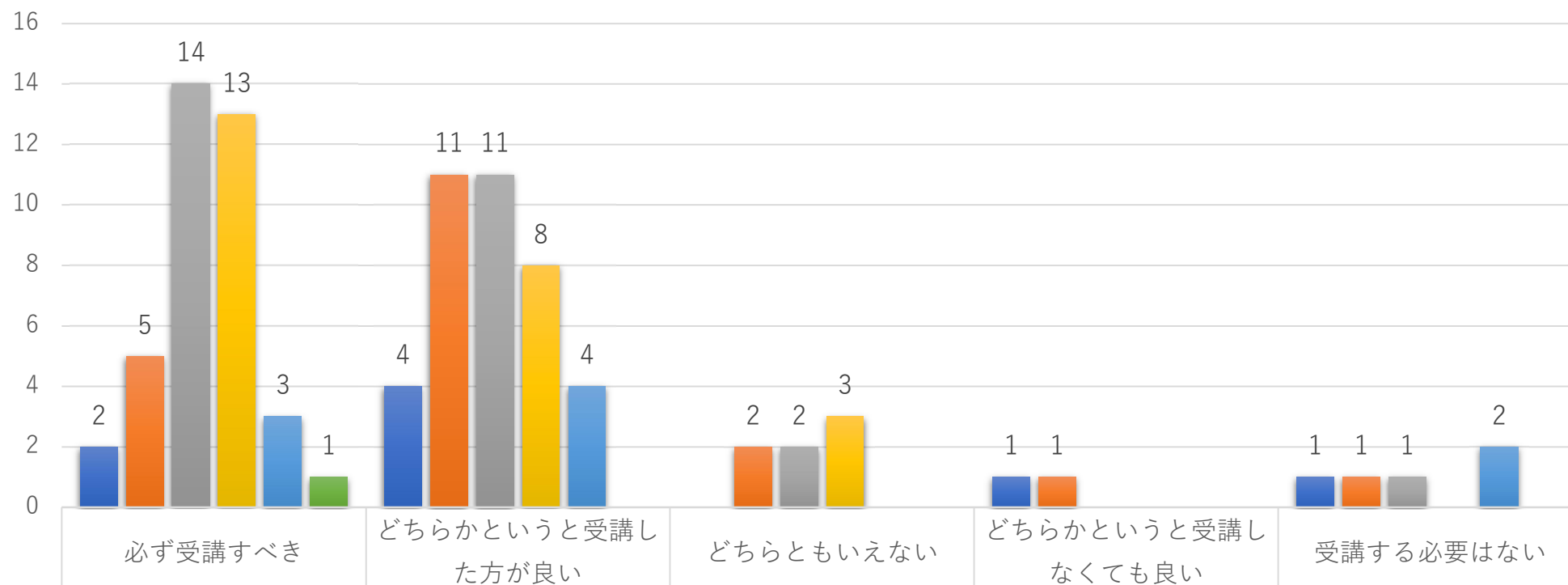
どちらかという受講した方がよい (38) → Q25

どちらともいえない (7) → Q26

どちらかという受講しなくてもよい (2) → Q27

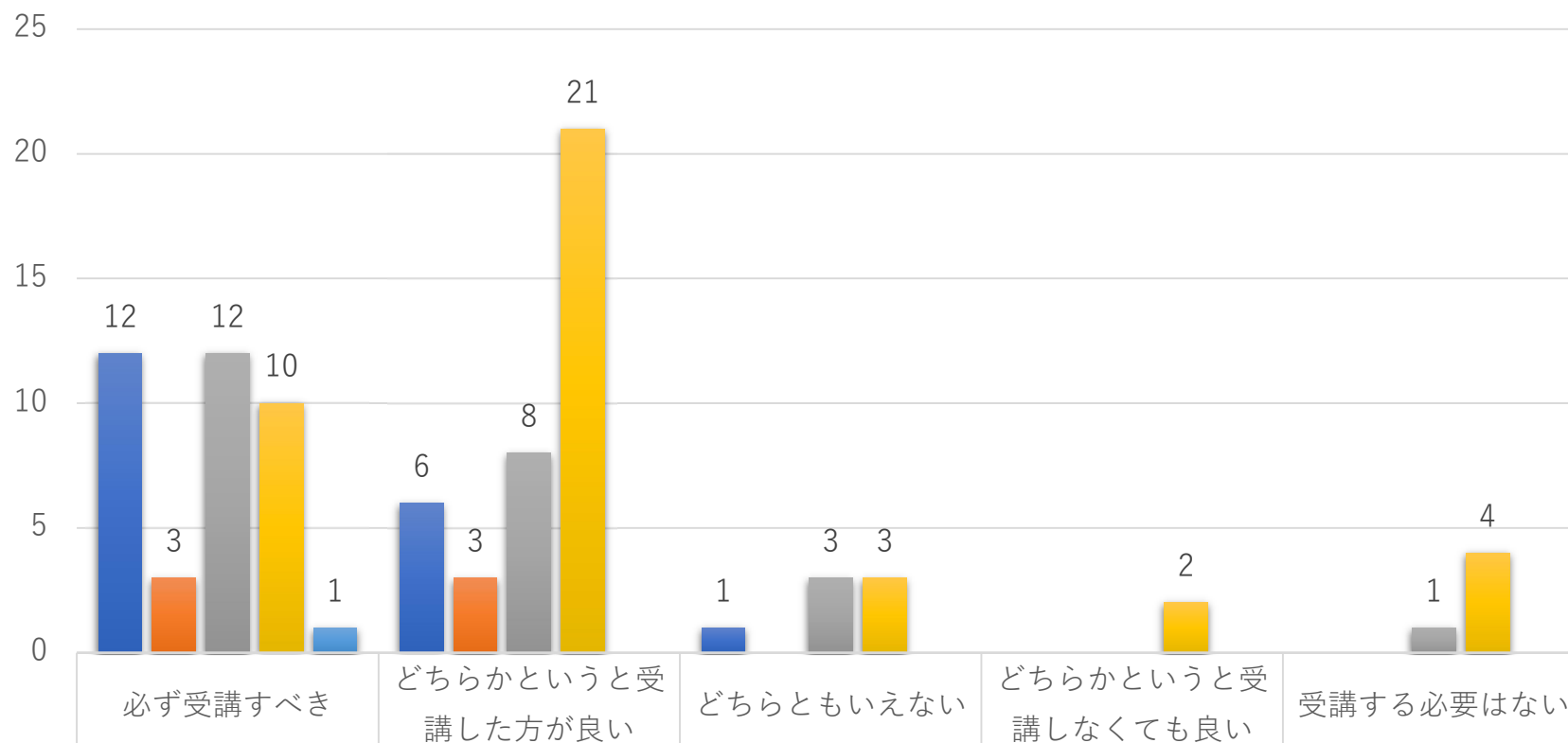
受講する必要はない (5) → Q27

Q24. 告示研修の受講をどのように考えますか（年代別）



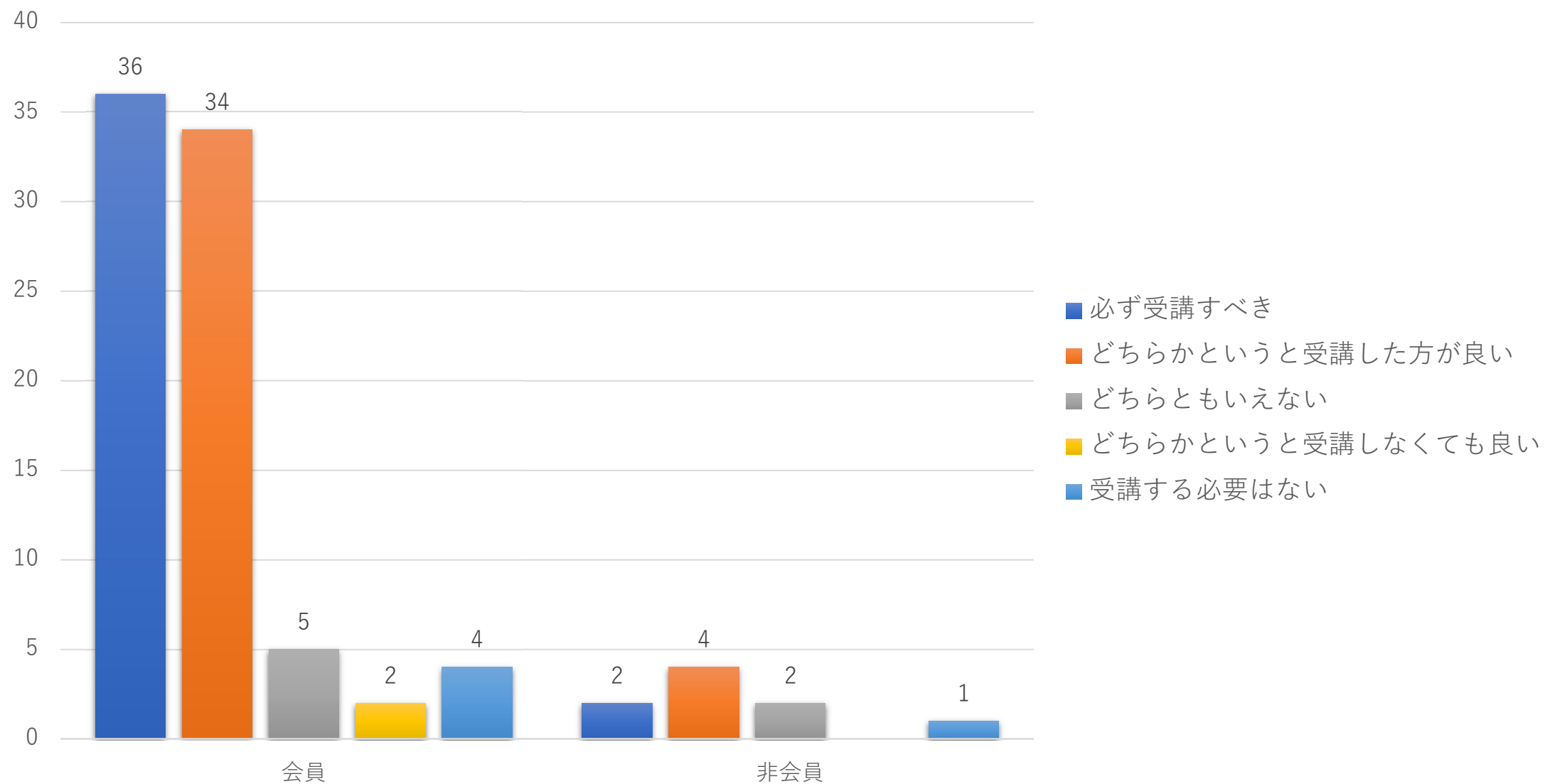
■ 20代	2	4		1	1
■ 30代	5	11	2	1	1
■ 40代	14	11	2		1
■ 50代	13	8	3		
■ 60~70代	3	4			2
■ 無回答	1				

Q24. 告示研修の受講をどのように考えますか（役職別）

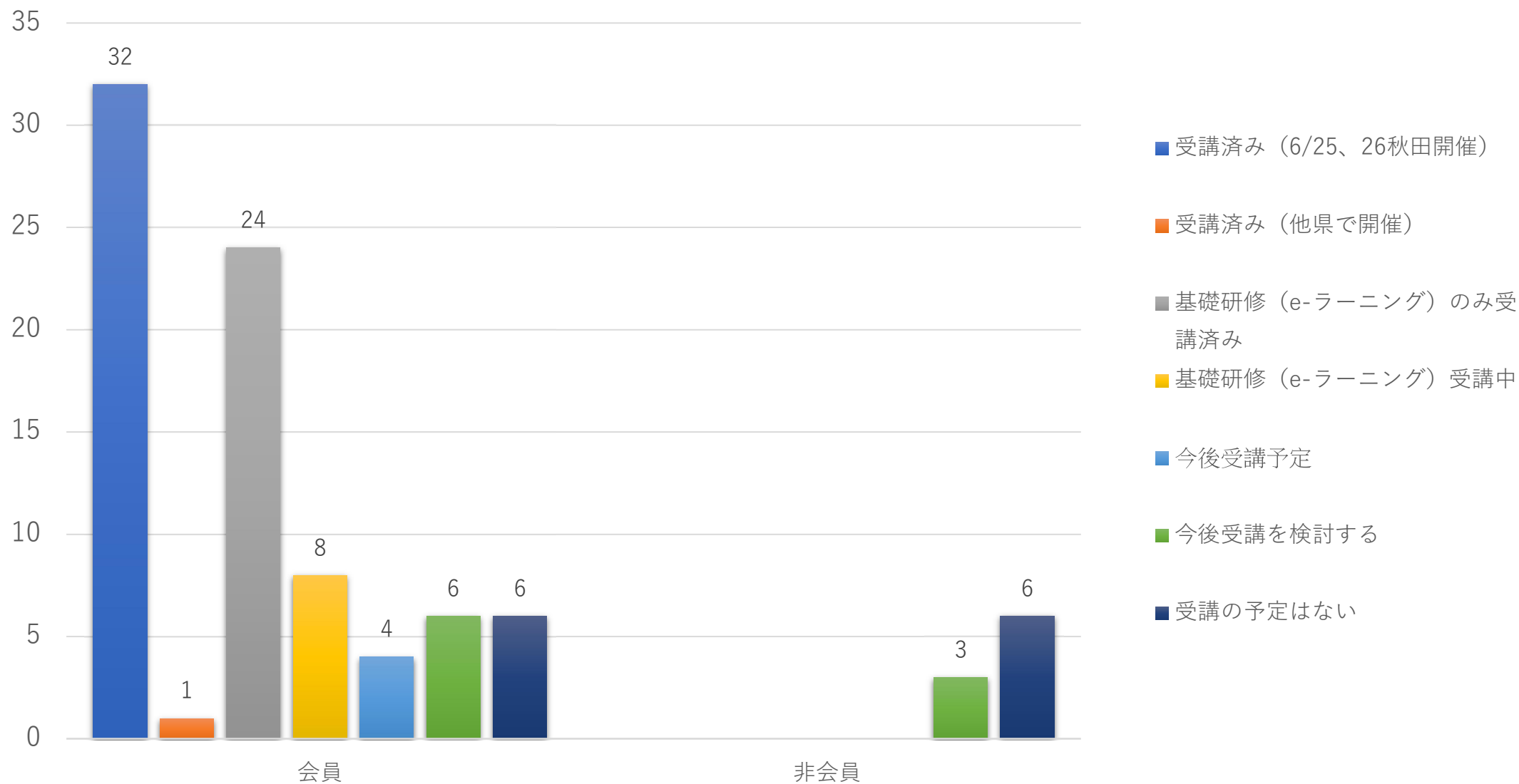


■ 管理者（技師長、部長など）	12	6	1		
■ 管理者（副技師長、課長など）	3	3			
■ リーダー（主任、部門リーダー）	12	8	3		1
■ スタッフ	10	21	3	2	4
■ 無回答	1				

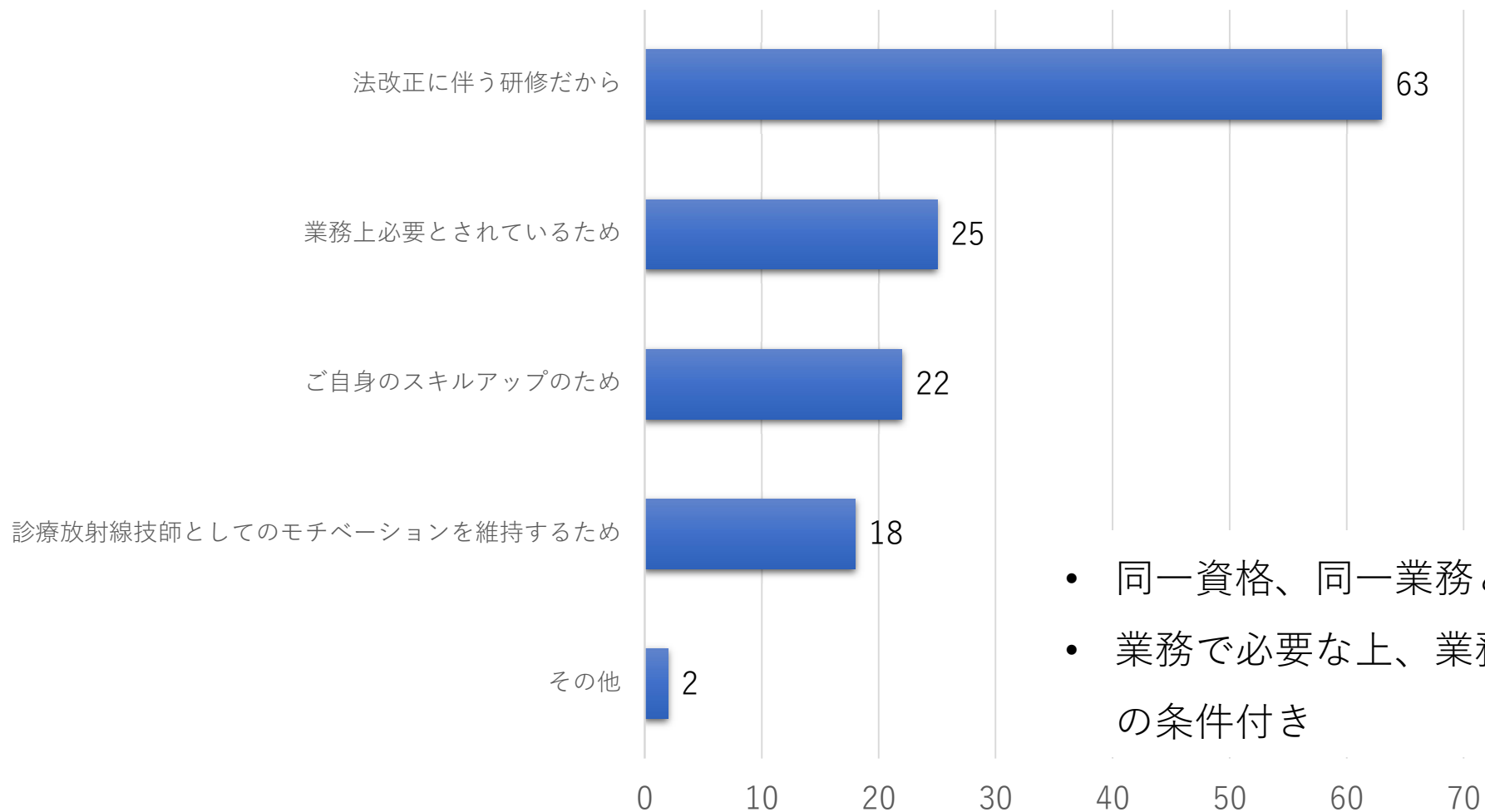
Q24. 告示研修の受講をどのように考えますか（会員別）



Q14. 既にすでに告示研修は始まっておりませんが、現在の受講状況を教えてください（会員別）



Q25. 告示研修の受講が必要と考える理由に近いものをお教えてください（複数回答）



- 同一資格、同一業務と考えれば受講すべき
- 業務で必要な上、業務の変更が行われるなら
の条件付き

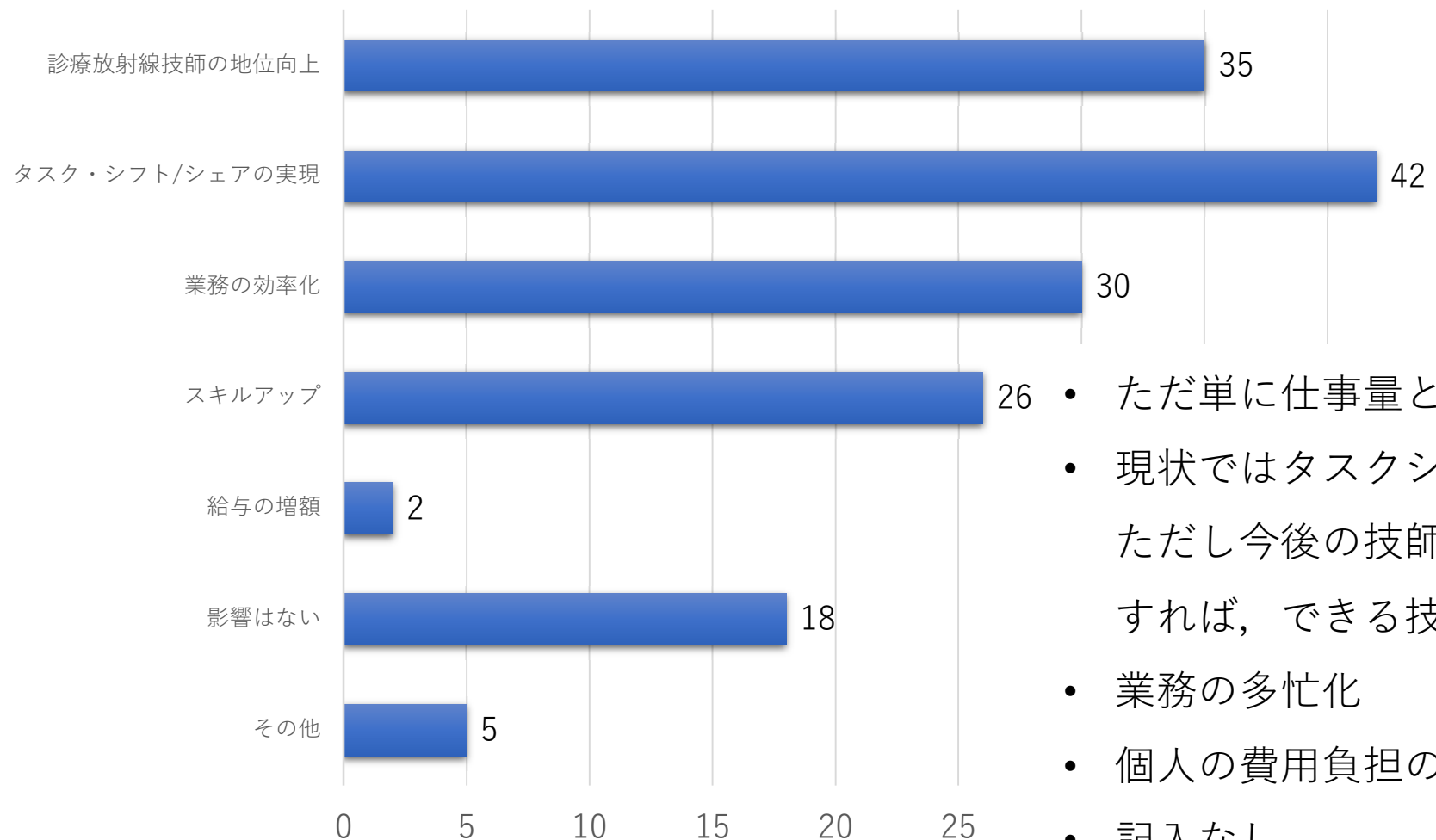
Q26. 告示研修の受講をどちらともいえないと考える理由をお教えてください

- 告示研修を受けることで実施できる業務が技師の業務のなかに含むかどうかは施設によって異なると思われるため、受講の判断は施設ごとに判断すればよいと思う。
- 定年後の第二の職場であり、今現在は拡大される業務を行っていないが、静脈注射が今後起こり得るコロナ・その他の感染症などに対する緊急時の即応体制の一助になりうる可能性を考えると受講も意味があると思う。
- 業務に必要なならば受講したほうがいい。必要なければしなくてもよいと思う。
- 特になし。
- 業務拡大には賛成だが、職場は現状維持の姿勢のため。
- 特にない。
- 定年が近いため。

Q27. 告示研修の受講が不要と考える理由を教えてください

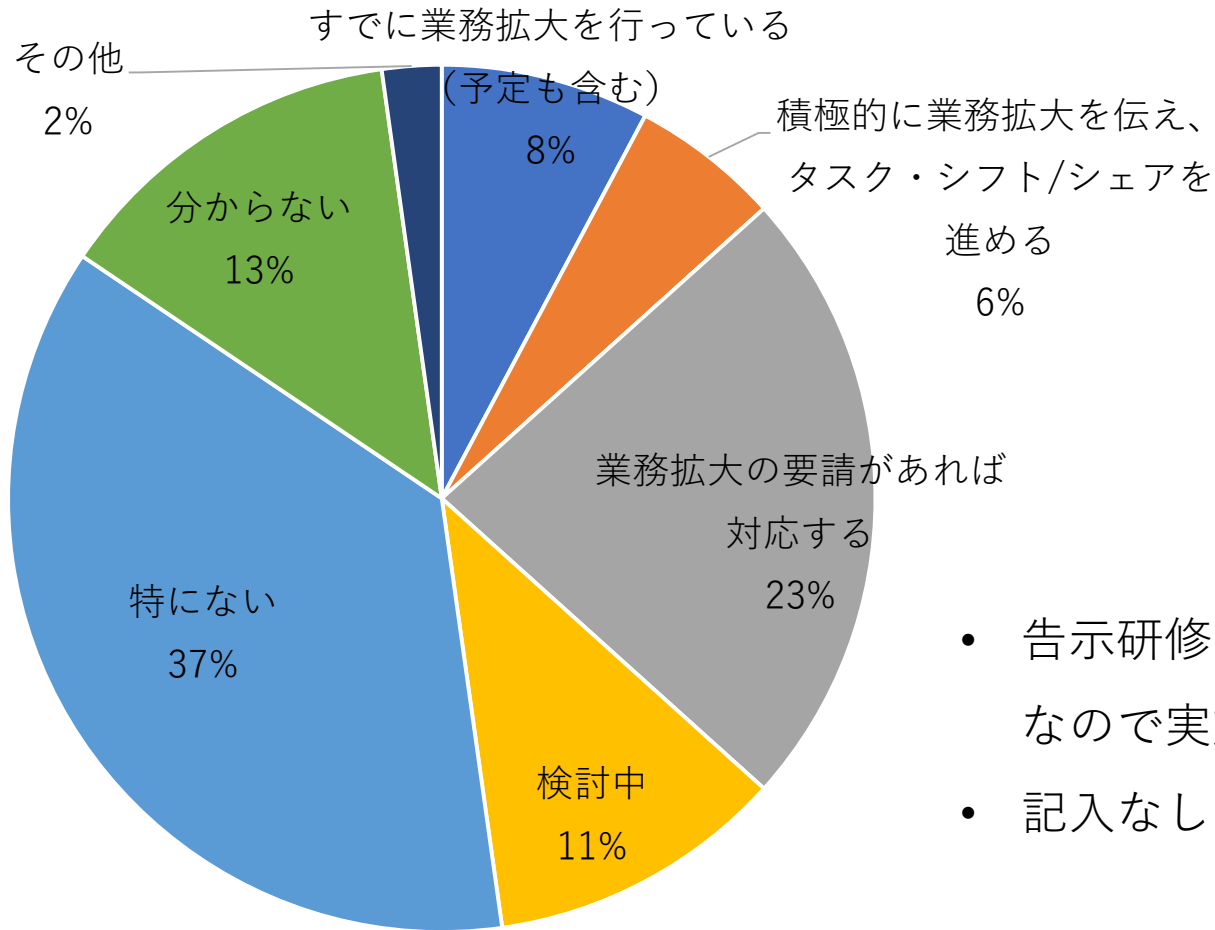
- お金を払って受講しても使わないから.
- 関連する業務を実施していないから.
- 勤務する病院で造影検査等を行っていない.
- 現状の業務でその行為を実施することはないから.
- 対象機器がないから.
- 当院では受講しても業務体制が変わる予定がないため不必要.
- 放射線技師がやらざるを得ない状況が出てくるとは思えないから.

Q28. 今後、告示研修のもたらす影響はどのようなものと考えますか（複数回答）



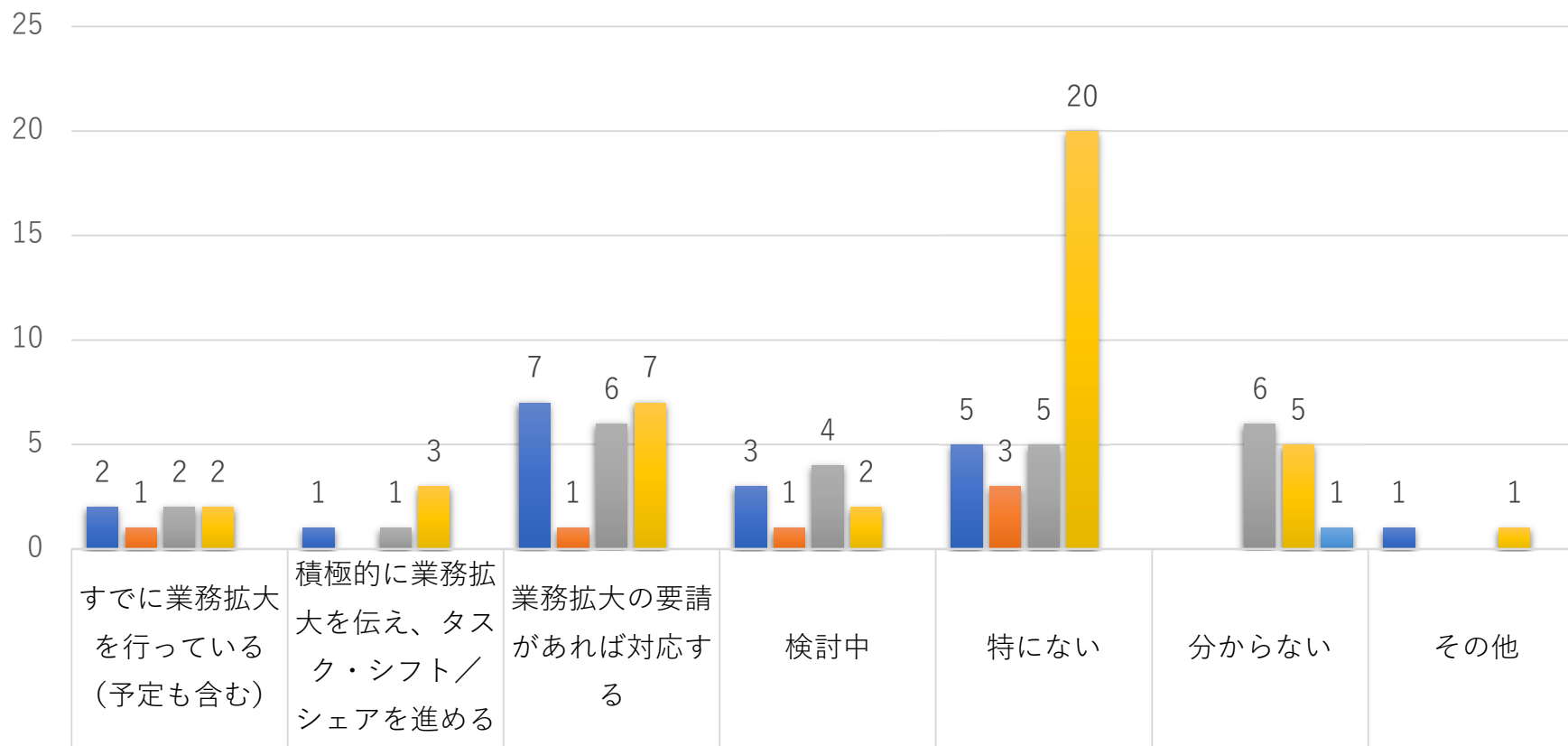
- ただ単に仕事量と責任が増えるだけ
- 現状ではタスクシフトなんか認知されていない、ただし今後の技師はスキルを身に付けてくるとすれば、できる技師できない技師の二重化される
- 業務の多忙化
- 個人の費用負担の増加と業務圧迫
- 記入なし

Q29. 告示研修受講後にご施設との関わり方をどのようにお考えですか



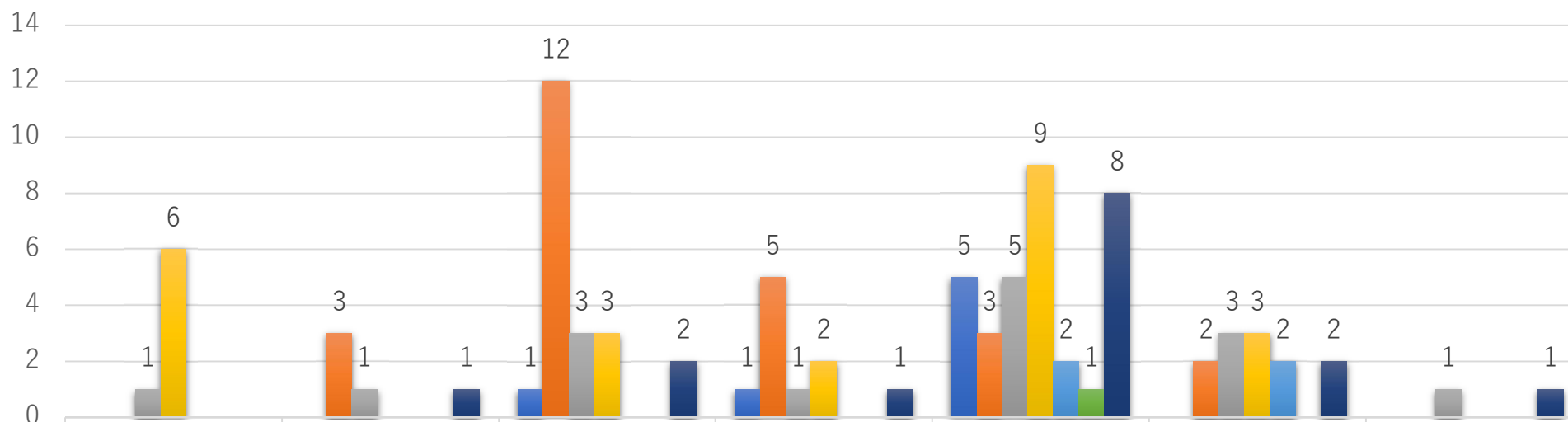
- 告示研修について、金は出さない、人は増やさない、なので実施予定はない
- 記入なし

Q29. 告示研修受講後にご施設との関わり方をどのようにお考えですか（役職別）



■ 管理者（技師長、部長など）	2	1	7	3	5		1
■ 管理者（副技師長、課長など）	1		1	1	3		
■ リーダー（主任、部門リーダー）	2	1	6	4	5	6	
■ スタッフ	2	3	7	2	20	5	1
■ 無回答						1	

Q29. 告示研修受講後にご施設との関わり方をどのようにお考えですか（施設規模別）



	すでに業務拡大を行っている（予定も含む）	積極的に業務拡大を伝え、タスク・シフト/シェアを進める	業務拡大の要請があれば対応する	検討中	特にない	分からない	その他
■ 500床以上			1	1	5		
■ 300～499床		3	12	5	3	2	
■ 200～299床	1	1	3	1	5	3	1
■ 100～199床	6		3	2	9	3	
■ 20～99床					2	2	
■ 診療所（有床）					1		
■ 診療所（無床）		1	2	1	8	2	1

小括 5 ①

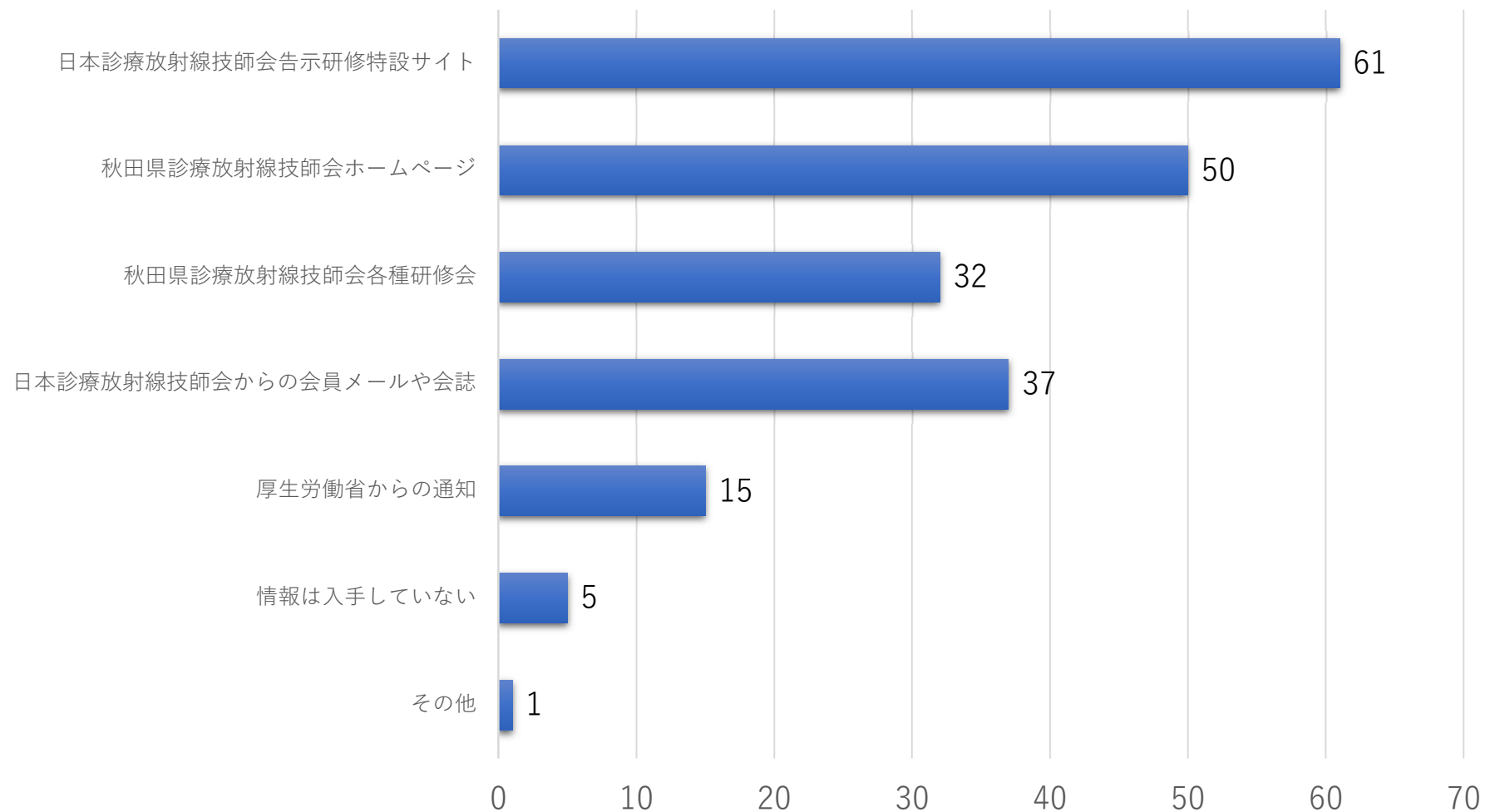
- 告示研修の受講は必要と考える方が8割強を占め、受講状況の今後の受講を検討するまで含めた結果と同等であった。
- 役職別に見ると、管理者やリーダーにおいて「必ず受講」の割合が高く、必要性を強く意識している一方で、スタッフは「どちらかと言えば受講」が多く、受講に対する意識に差が見られた。
- 非会員の中でも、受講の必要性を意識している技師が2/3いた。
- 受講が必要と考える主な理由は「法改正に伴う研修」が多く「業務上必要」が続いていた一方で、不必要と考える理由で「現状、業務を行っていない」あるいは「行う予定がない」であった。

小括 5 ②

- 告示研修のもたらす影響については「タスク・シフト/シェアの実現」「技師の地位向上」「業務の効率化」「スキルアップ」を上げる技師が多かった。
- 告示研修受講後の施設との関わりについては、管理者やリーダーで業務範囲の拡大を行っている施設の技師を除けば、「要請があれば」「検討中」が多く、「特にない」「分からない」とほぼ同数に近かった。
- すでに実施もしくは計画中という施設には中規模施設が多く、フットワークの良さなどが影響していると考える。

6. その他、最後に

Q30. 告示研修に関する情報の入手方法お教えてください（複数回答）



• 記入なし

Q31. 今後引き続き告示研修は開催されますが、疑問や不安な点、ご確認などございましたらご自由にご入力ください

- 会員以外への周知（必要性を含む）、関連業務を行なっていない立場でも受講が必須であることをどのように認識させるか
- 拡大された業務への関心度・積極性の個人差をどのように埋めるか
- テスト
- 一回だけの実技研修ではなかなか理解できませんでした。何回も繰り返して反復練習する必要があると思います
- 加点が付くようになれば、興味を持たない放射線技師や病院が告示研修を積極的に受けるのでは
- 穿刺のみに集中する時間がもっと欲しかった。血管の確保にばかり気になり、接遇やほかの手順を行う余裕があまりなかった
- 内容を整理して、もっと短時間で終わるようにしてみては？

Q31. 今後引き続き告示研修は開催されますが、疑問や不安な点、ご確認などございましたらご自由にご入力ください

- 核医学でシリンジ製剤を静注する行為は法的解釈に合っているのか？
- 技師会には段階的に業務拡大が給与の増額に繋がる様に動いてほしい、看護協会は以前からその様な動きがあると感じる
- 施設から援助がない点
- 静脈確保が困難な対応や医療訴訟のリスクについて
- 法改正、タスクシフトについての考え方にJARTと技師会員に齟齬が生じている気がする。
JARTはもっと技師会員に説明が必要だし、今までのノックダウン方式を改めるべき。
そうしないと組織率はもっと低下すると思う

小括 6

- 告示研修に対する情報は様々な媒体から入手している。
- ホームページや研修会など能動的な情報収集が行われている。
- 研修会に対して様々な意見が寄せられ、今後の研修会運営に活かしたい。

総括

本調査において、秋田県内の診療放射線技師の告示研修に対する意識をある程度把握することができた。

業務範囲が拡張され、告示研修の必要性は理解しているものの、施設の不理解や業務上不必要などの理由で、受講を控えていることが浮き彫りとなった。

今回の調査では、告示研修に対する意識の高い方が多くの回答を寄せていただいたことにより、好意的な意見が多かったと判断することもでき、ネガティブな意見に対して丁寧な説明が必要であると考えます。

施設の理解を得るためには、多職種との連携で手段を講じることも必要ではないかと考える。

今回の貴重な意見を参考にし、今後の受講者増加促進に繋げて参りたい。

謝辞

今回の調査にご協力いただいた
秋田県内の診療放射線技師の皆さま

ご尽力いただきました豊嶋会長をはじめとする
秋田県診療放射線技師会理事の皆さま

心より感謝を申し上げます